

ヒャルチベット語九寨溝・玉瓦 [gZhungwa] 方言の音声分析

鈴木博之

(日本学術振興会/国立民族学博物館)

Shar Tibetan gZhungwa [Yuwa] dialect : phonetic analysis

SUZUKI, Hiroyuki

Japan Society for the Promotion of Science / National Museum of Ethnology

gZhungwa dialect belongs to Shar Tibetan, spoken in Yuwa village, Jiuzhaigou County, Aba Tibetan and Qiang Autonomous Prefecture, Sichuan. Shar Tibetan dialects are also spoken in Songpan County and the eastern area of Ruoergai County. This article treats phonetic and dialectal characteristics of gZhungwa dialect, which has following particularities: the register distinction based on the two different phonation types; special phonemes such as /ɬ, ʒ/; combinations of an initial and its preaspiration which do not match in voicedness; and the simplified vowel correspondence with Written Tibetan forms. At the end of this article, a wordlist (ca. 1400 words) of gZhungwa Tibetan is provided.

Keywords: Shar Tibetan, phonetics, dialectology, dialect classification

キーワード：ヒャルチベット語、音声学、方言学、方言分類

1. はじめに
2. gZhungwa 方言の音体系
3. 超分節音
4. 母音
5. 子音
6. 蔵文との対応関係による gZhungwa 方言の特徴づけ
7. 語形式による gZhungwa 方言の特徴づけ
8. まとめ

1. はじめに

四川省北西部に位置する阿壩藏族羌族自治州の北東端を占める九寨溝県は、「川西民族走廊」と呼ばれる地域の北端の一角にあたり、歴史上さまざまな民族が行き交った地域である。九寨溝県の主要交通路の周辺は現在「白馬藏族」と呼ばれる人々が居住していた地域とされているが、南に位置する松潘県方面からチベッ

ト人が流入し、西半分は言語を含めチベット文化の影響を強く受けている。

1.1. 九寨溝県のチベット語方言

九寨溝 [gZi-rtsa sDe-dgu]¹ 県 (旧称は南坪 [rNam-'phel] 県) で現在チベット族によって話される言語は数種に分かれている。これらの言語についての具体的な言語学的研究はほとんど行われていない。言語使用状況については知られていて、相互理解の困難な3種類に分かれ、それぞれ九寨溝県南東部、九寨溝県南西部、九寨溝県北部に分布している。これら3種の言語のうち、筆者は最初の地域に分布しているものをペマ語、残りの2地域に分布しているものをチベット語方言と認識している。このうち筆者は、県南西部で話される方言すなわち世界自然遺産・九寨溝風景区 [Khod-po-khog] 周辺で話されるチベット語について簡単な音声に関する記述を鈴木 (2007a, 2008a) において提出したが、県北部で話されるチベット語については孫天心 (2003) が若爾蓋 [mDzod-dge] 県巴西 [dPal-skyid] 区のチベット語方言と近い関係にあることを述べているにとどまり、具体的な記述は存在しない。本稿で扱う玉瓦 [gZhung-ba] 郷で話される gZhungwa 方言は後者に属するもので、この方言群の初めての言語学的記述と位置づけられる。

九寨溝県北部に分布する方言は、主として上記の玉瓦郷のほか大録 [sTag-lo] 郷、黒河郷で話されている。さらに大録郷に西接する若爾蓋県巴西区の巴西 [dPal-skyid] 郷、阿西茸 [A-skyid-rong] 郷、求吉 [Chos-rje] 郷、包座 [Bab-bzo] 郷においても近い特徴をもつ方言が話されている。この事実は近年の孫天心 (2003)、Suzuki (2005a)、鈴木 (2007c, 2008a) などの研究で明らかになったことで、一般に広く知られる認識とは異なっている。広く知られているのは、阿壩州の北部一帯がチベットの地域区分でアムドの一部に分類され、牧畜地帯ではアムドチベット語 (もしくはチベット語アムド方言) が通用している、ということである。この観点に立って書かれている言語学的研究も散見されるため、注意が必要である。

九寨溝県北部をはじめ、阿壩州の北東部に位置する地域で話されているチベット語方言は、従来十分な調査がなされていなかったことから、下位区分に関する見解がさまざまであった。筆者は自身の調査から、阿壩州の北東部に分布する一連の土着のチベット語方言を「ヒャルチベット語」という方言群にまとめている (鈴木 2006, 2007ac)。ヒャルチベット語の詳細な分布地域は、若爾蓋県東部および同地に接する松潘 [Zung-chu] 県と九寨溝県である。松潘県のヒャルチベット語は、水晶 [Chu-shel] 郷、山巴 [sKyang-tshang] 郷、川主寺 [gTso-tshang] 鎮、十里回族郷など岷江上流域が主だった分布地域となり、この地域のチベット名 [Shar-khog] が方言名「ヒャル」の名称のもととなっている²。

筆者の調査・観察によれば、アムドチベット語話者とヒャルチベット語話者は基本的に相互理解が困難であるといえる。ヒャルチベット語話者は必要に応じて

¹ チベットの地名など固有名詞には、[]内にチベット文語形式 (藏文) を添える。

² ヒャルチベット語に関する最初の言語学的研究は Nagano (1980) である。ただし同書にある Sherpa という名称には問題があり、Sharwa「ヒャルワ」を用いるのがよいと考える (鈴木 (2005b:2)、鈴木 (2007a:31))。

アムドチベット語を身につけているが、一方でアムドチベット語話者は基本的にヒャルチベット語を理解しないことが観察される³。九寨溝県のチベット族は自らをアムドチベット人と言うことはまれ⁴であり、九寨溝県が地域的にアムドの一部とみなされる一般的認識とアイデンティティーとの間にずれがある。

なお、18世紀に編纂された丁種本《華夷譯語》の1つに数えられる《西番譯語》川一 (=《松潘譯語》) に記録されている言語は、音声方面の特徴を考えると、現在松潘県で話されるヒャルチベット語の直接の祖先に当たる言語の記録であると考えることができ(鈴木 2007a:370-380)、歴史資料にヒャルチベット語はすでに登場している⁵。

1.2. 本稿の構成

本稿の構成は、先に gZhungwa 方言の音素体系を紹介した後、超分節音・母音・子音の順で具体例を挙げつつ考察を加える。また、本稿末尾に gZhungwa 方言の分類語彙(約 1400 語)を付す。

本稿で分析する言語資料は筆者の現地調査による一次資料に基づき、口語形式を対象とし、文語読書音は含めないよう配慮した。主な調査協力者は調査協力者はリンヅィン [Rig-'dzin] さん(男性)で、九寨溝県玉瓦郷出身である。資料収集のための現地調査は 2007 年、九寨溝県漳扎鎮で行った⁶。

2. gZhungwa 方言の音体系

2.1. 超分節音

レジスターすなわち緊張性(°で示す)と弛緩性(無標)の 2 項対立が認められる。

2.2. 母音

長母音、鼻母音および緊喉音も確認される。

³ アムドチベット語話者の中には、ヒャルチベット語を「農区話」と呼びアムドチベット語の一部とした上で、「牧区話」と異なるから互いに通じない、というように相互理解のなさを説明する人もいる。

⁴ 九寨溝県のチベット族居住民は基本的に自らをアムドチベット人とは思えないが、観光客向けにアムドチベット人と名乗ることがある。なお、九寨溝県東部に住むペマ人は自らをチベット人ではない、という人もいる。ペマ人をめぐる具体的問題は西田・孫(1990)などを参照。

⁵ 《松潘譯語》に関する研究は複数あるけれども、ヒャルチベット語自体が上記のように最近筆者によって認定されたこともあって、その記録言語についての見解は混乱している。

なお、《松潘譯語》には記録言語の通用地域と目される地域名が序文に記載されており、その中には現在の松潘県の地名はもちろんのこと、詳細な九寨溝風景区や若爾蓋県東部の地名も含まれている(《松潘県誌》(1998)にある清代の松潘の地図参照)。ただし《松潘譯語》の記録言語がこれら全地域にわたって通用したかどうかは定かではない。

⁶ gZhungwa 方言の調査協力者は、以前から筆者の Thangskya (十里大屯) 方言の調査協力者であるタシ・ラモ [bKra-shis Lha-mo] さんの紹介によって出会うことができた。特に記しておく。

i	ɯ	uu u
e	ə ə	o
ɛ	ɜ	ɔ
	a	ɑ

2.3. 子音

子音連続の構成要素としてのみ現れるものも含めた一覧

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t̪ ^h		k ^h	
	無声無気	p	t	t̪		k	ʔ
	有声	b	d	d̪		g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tʃ ^h		
	無声無気		ts		tʃ		
	有声		dz		dʒ		
摩擦音	無声有気		s ^h	ʃ ^h	ç ^h / ç ^h	x ^h	
	無声	ɸ	s	ʃ	ç / ç	x	h
	有声		z, ʒ		ʒ	ɣ	ɦ
鼻音	有声	m	n		ɳ	ŋ	
流音	有声		l	r			
半母音	有声	w			j		

2.4. 音節構造

音節構造の設定は、鈴木 (2005a) を参照して以下のように記述できる。

^cC_iGVC

このうち C_i (主子音) と V (音節核の母音) が必須である。なお、末子音が現れるのは極めてまれである。

3. 超分節音

gZhungwa 方言をはじめヒャルチベット語諸方言を最も特徴づけるものとして、レジスターによる対立をあげることができる。レジスターとは、音節全体に見られる喉頭筋肉の作用による声帯の緊張に関する発声上の異なりで、緊張と弛緩の2種類に分かれる。それぞれが持つ音声学的な特徴は以下のようである。

1. 緊張レジスター：高ピッチ、緊喉音
2. 弛緩レジスター：低ピッチ、息漏れ音

緊張レジスターは音節初頭から、すなわち子音の調音時から明瞭に現れ、音節核である母音の聴覚印象に若干のきしみ音が伴うような音声実態に特徴づけられ

る。このため、いわゆる緊喉母音とは異なる性格を持っている⁷。筆者の観察では、gZhungwa 方言は以上に示した音声学的特徴のうち、全てが同時に音声実現に反映される必要はなく、また緊喉性はきわめて弱い⁸。

筆者は緊張レジスターを有標とし、語頭に°を加えて表すものとする。そして、高ピッチ、緊喉音などの特徴が決して現れない場合は弛緩レジスターに分類し、そのことは特に記述せず、無標とする。レジスターの差異が対立において重要な役割を果たしていると思われる例には、以下のようなものがあげられる。

含まれる分節音	緊張レジスター	弛緩レジスター
k ^h a	°k ^h a ɕ ^h a 「からい」	k ^h a ⁿ de 「にがい」
ŋgo	°ŋgo 「頭」	ŋgo ^h ɕa 「髪」

レジスターはほとんどの事例において語単位で現れると分析できる。というのは、語の初頭音節が以上に述べた明確な音声的特徴を見せるのに対し、第2音節以降はあまり明確にならず、緊喉音は聞かれず高ピッチで現れることが多数を占めることから、レジスターが明確に指定されるのは語の第1音節であると考えられる。

4. 母音

母音には長短の区別が確認され、弁別的であると考えられる。鼻母音/非鼻母音の差異も見られ、特に語中において鼻音に先行するときによく現れる。ただしいくつかの語で鼻母音と鼻音化していない長母音との交替を見せるなど、不安定である。

各母音の音価は表記に示されるものに代表される。

4.1. 非鼻母音

以下に非鼻母音の具体例を、長短それぞれ1例ずつ掲げる。

	短母音例		長母音例	
i	xə ri	小さい	°fi:ŋi:	銀
e	ɲe	火	x ^h e: fi:to:	木
ɛ	°ʔɛ ŋa	小指	nɛ:	青稞
a	°s ^h a	土	si ja:	露
ɑ	°ts ^h ɑ	血	°na:	森
ɔ	°ŋɔ	私	°h ^h pɔ:	草地
o	ⁿ dzo wu	乳牛	°fi:to:	結ぶ
u	°hpu	毛	°lu:	綿羊

⁷ 筆者がレジスターと呼ぶものの音声学的特徴については、より詳細な音声学的記述を含む分析を鈴木 (2005b) や Suzuki (2005b) が Sharkhog 方言について行って、その記述と gZhungwa 方言の事例との間に大きな差はない。

⁸ 一部の先行研究、たとえば Nagano (1980) や Sun (2003a) などでは、筆者のいうヒャルチベット語に高低の声調を認め、ピッチによる対立が(一部の音素に限定される場合もあるが)成立しているが、筆者の観点はピッチの差異にのみ基づくわけではないという観察結果によっている。

u	luɪ γuɪ	子綿羊	^h tse ^h luɪ:	丸い
ə	^ə h _i ɲə	人	rə zə:	角(つの)
ɯ	ɕe: lɯ	鳥	^ə h _s ɯ:	炒める
ə	tə ^h iə	煙	^h lə:	肺
ɜ	^ə htɜ	馬	rə γɜ:	酒

4.2. 鼻母音

調査語彙の中で鼻母音が現れる例は、相当少ない。以下に鼻母音の具体例を各母音について1例ずつ挙げる。

i	tsĩ ^ŋ go	ひざ
e	^ə htɕje zẽ	猛獣
ɛ	^ə ʂẽ ma	えんどう
a	^ə nã ^ŋ õ ^m bo	天
ɑ	nã je:	霜
ɔ	^ə nõ	天気
o	ⁿ dõ ^ŋ ɔ	食糧
u	^ə hka lã: ⁿ t ^h ũ	つらい
ɯ	^ə h _i ũ ^h ta	馬嚼子
ə	ts ^h ẽ ^ŋ a	腕
ɯ	ⁿ dɜ s ^h ũ	沈む
ə	^ə h _i kõ ^ŋ gɜ	冬
ɜ	^ə h _i lɜ̃ ^m ba	湿った

5. 子音

子音は、初頭子音について単子音および子音連続に分けて具体例を挙げつつ考察する。

5.1. 単子音

単子音の具体例は、可能な限り2例ずつ挙げる。

5.1.1. 閉鎖音・破擦音

/b, d, g, dz, dz/については単子音として確認されていない⁹。

⁹ そり舌閉鎖音/^ht, t, d/の実際の音価には、特に有気音については閉鎖とともに微弱な摩擦の要素も含む場合があり、たとえば [t^{sh}] のようになって破擦のように聞こえることもあるが、これが歯茎や前部硬口蓋で調音されるの破擦性とは明らかに異なっている。破擦音とする音素の音声実態には、十分な摩擦音成分が含まれており、[ts] や [t^hc] のように表せるが、そり舌音については [ts] と書き表すには摩擦音成分が弱い。

	例語	語義	例語	語義
p ^h	°p ^h ɑ:	ぶた	p ^h o ^h tɕu:	木製椀
p	pe:	チベット人	°pi: wo	ほうき
b				
t ^h	t ^h u:	ごはん	t ^h ə:	金槌
t	°to: wa	穀物	tow	熊
d	di: ts ^h ɛ:	時間		
t ^h	°t ^h ə zow	万	t ^h ə s ^h ɜ	ベッド
t	tɛ:	ラバ	tə:	皮の袋
ɖ				
k ^h	k ^h ɛ ^h ta	荷馬	°k ^h ə rə	からす
k	ke:	着る	°kuu ku	カッコウ
g				
ʔ	?a mo	母	?a luu	猫
ts ^h	°ts ^h ə	犬	°ts ^h ɜ	塩
ts	tsɑ:	鳴く	tsi: ɣi	移動する
dz				
tɕ ^h	°tɕ ^h u	水	tɕ ^h i kuu	石屋
tɕ	°tɕɜ	茶	tɕa ^h dzɛ	平たい
dʒ				

5.1.2. 摩擦音

gZhungwa 方言は摩擦音に有気、無気、有聲の3系列を有し、かつ/ɸ, ɸ, ɸ/といった特徴的な音素が認められる。ただし/ɸ/については単子音として存在しない。

	例語	語義	例語	語義
ɸ	ɸu: ɣi	持ちこたえる	ɸə̃ ni ji	選び出す
s ^h	°s ^h a	地	°s ^h ə̃ ɲe:	種
s	si ja:	露	sā ^h mo	銅
z	zo wa	仕立て屋	za ɣə	かゆい
ɸ				
ɕ ^h	°ɕ ^h ɑ:	松	°ɕ ^h e	開ける
ɕ	ɕɑ ^h mo	砂	°ɕɔ: ^h no:	腫れる
ʒ	°k ^h ɜ ze	ほどく	zē ^h ɸ ^h ə̃	生活
ʂ ^h	°ʂ ^h ə̃ lə	通り		
ʂ	°ʂi:	雲	°ʂe: fiu	いたち
ɕ ^h	ɕ ^h e:	知っている	ɕ ^h i: ^h du:	びん
ɕ	°ɕe:	洗う	ɸ ^h tɜ ɕi:	吉祥
x ^h	x ^h e: ^h to:	木	x ^h ɑ:	鹿

x	°xɔ γɔ	母方のおじ	xɛ: te:	頼る
γ	γa ze:	虹	γɑ:	産む
h	he: ki	理解する	ha jɔ:	アルミ
fi	fiɔ wɔ	乳	lu fiɔ	溝

5.1.3. 共鳴音

gZhungwa 方言の共鳴音には有声音系列しか存在しない。

/r/ の実際の音価には代表的なものとして [ɹ, ɽ, ɽ] など複数ある。

	例語	語義	例語	語義
m	me: ru:	花	ma:	バター
n	nɔ: nɑ:	芯	na ja	野牛
ɲ	ɲe	火	°ɲafi	魚
ŋ	°ŋɔ	私	ŋo	真の
l	lɔ:	道	la:	手
r	rə	山	ru γu:	うさぎ
j	°ji:	油	ju ka	カラスムギ
w	wu:	テント	wɛ:	下りる

5.2. 子音連続

gZhungwa 方言に見られる子音連続の組み合わせは比較的多いが、その組み合わせには一定のパターンが見られる。わたり音を含まないものを考えると、子音連続は例外的なものを除き、最初頭子音^Cと主子音^{C_i}の間の組み合わせが決まっており、常に最初頭子音の共鳴度が低い。具体的に最初頭子音に現れるものに注目すると、鼻音(前鼻音)、声門摩擦音(前気音)、両唇摩擦/接近音、軟口蓋摩擦音がある。このうち前気音を除いて最初頭子音の有声性は主子音と一致する。

前気音には有声性が異なる組み合わせが見られるが、これらは Suzuki (2005a) や鈴木 (2007c) で強勢/弱勢と呼んで分類し、声帯振動を抑制する筋肉が強く働くかどうかの異なりの中で、fortis/lenis による対立と考える。たとえば以下のような例がある。

	fortis	lenis
緊張レジスター	°hka fi mo 「星」	°fi ka 「愛する」
弛緩レジスター	hke: ru 「白い」	fi ke hpo 「年老いた」

これらは最初頭子音の調音に関して、声帯振動を抑制する筋肉が強く働いているものを強勢すなわち fortis と解釈し、抑制する筋肉が十分に働いていないものを弱勢すなわち lenis と解釈する。これは声帯そのものの緊張とは異なっているため、上記の例のようにレジスターの緊張性とは独立して現れる。よって、lenis タ

イブの子音連続では、主子音 C_i の音価は入りわたりが無声化有声音（半有声音）で、出わたりが完全な無声音になる。

一方前鼻音には、ごく少ない例について主子音と調音点が異なる（両唇鼻音で現れる）例が存在する。

これらの子音連続の組み合わせとは独立して、わたり音 G が現れる。よって、最大で以上に示した組み合わせとわたり音を初頭子音群に含むことができる。

以下に子音連続の組み合わせを基準に分類して具体例を掲げる。

5.2.1. 前鼻音

有声音に先行するもの

${}^m\mathbf{b}$: ${}^{\circ}mbu$ 虫
 ${}^n\mathbf{d}$: ndela 葉
 ${}^n\mathbf{d}$: ${}^ndo^hpo$ 客
 ng : nggo 頭
 ${}^n\mathbf{dz}$: ndzui 指
 ${}^n\mathbf{dz}$: ${}^nt\tilde{d}{}^ndzui$ 70

無声有気音に先行するもの

${}^m\mathbf{p}^h$: ${}^mp^ha$ ジャツカル
 ${}^n\mathbf{t}^h$: ${}^nt^ho^mbo$ 高い
 ${}^n\mathbf{t}^h$: ${}^nt^he^hle$ 横
 ${}^n\mathbf{k}^h$: ${}^nk^ho$ 家
 ${}^n\mathbf{ts}^h$: ${}^nts^ho$ 海
 ${}^n\mathbf{te}^h$: ${}^nte^hu^hpa$ 唇

無声無気音に先行するもの

${}^m\mathbf{p}$: mpe 呼ぶ
 ${}^n\mathbf{t}$: ${}^nj\theta\gamma\theta^nte$ 学者
 ${}^n\mathbf{t}$: ${}^nt\epsilon$ はさみで切る
 ${}^n\mathbf{k}$: ${}^nke^hno$ 裂く
 ${}^n\mathbf{ts}$: ${}^nts\tilde{e}^mbo$ 適当な
 ${}^n\mathbf{te}$: ${}^nteui^hti$ 口

前鼻音と主子音の調音点が同一でないもの

${}^m\mathbf{d}$: ${}^md\epsilon$ 鬼

5.2.2. 前気音

有声性の一致するもの

$^h p$: $^h p u$	毛
$^h t$: $^h t 3$	馬
$^h t$: $^h t \emptyset w u$	指輪
$^h k$: $^h k e$	首
$^h t s$: $^h t s \emptyset m b 3$	ツアンパ
$^h t \zeta$: $^h t \zeta a$	鉄
$^h s^h$: $^{\circ} l a^h s^h a$	ラサ
$^h s$: $^h s u$	3
$^h \zeta$: $^h \zeta 3 t s \emptyset$	耐える
$^h \zeta^h$: $^h \zeta^h u$	方角
$^h \zeta$: $^h \zeta u$	γi 嘔吐する
$^h \zeta$: $^h \zeta i$	破壊する
$^h x$: $^h x 3$	撒き散らす
$^f b$: $r \emptyset^f b a$	引越す
$^f d$: $^{\circ} f d o f i o$	石
$^f d$: $^{\circ} f d i$	引きずる
$^f g$: $^f g \varepsilon^h p o$	大人
$^f d z$: $^{\circ} f t \zeta^h \emptyset$; $^f d z \emptyset$	踊る
$^f d \zeta$: $^f d \zeta i$ $^f d e$	支える
$^f z$: $^f z e$	袈裟
$^f \zeta$: $^f \zeta e$	忌む
$^f \zeta$: $^f \zeta a$	$w o$ 貼る
$^f \gamma$: $^f \gamma u$	溶ける
$^f m$: $^{\circ} f m e n e$	耕す
$^f n$: $^f n a^m b u$	耳
$^f n$: $^{\circ} f n \emptyset$	人
$^f \eta$: $^{\circ} f \eta \emptyset$	5
$^f l$: $^{\circ} f l \emptyset$	肺
$^f r$: $^f r i$	蛇
$^f w$: $^{\circ} f w u w a$	蛙
$^f j$: $^{\circ} f j \emptyset w u$	簡単な

有声性の一致しないもの

$^f t$: $^f t \emptyset m o$	丸太
$^f t$: $^{\circ} f t u$	かさが増す

$^{\text{h}}\mathbf{k}$: $^{\text{h}}\text{ke: ri}$ 背
 $^{\text{h}}\mathbf{ts}$: $^{\text{h}}\text{tsa}^{\text{h}}\text{ka:}$ 月
 $^{\text{h}}\mathbf{t\check{c}}$: $^{\text{h}}\text{t\check{c}\check{o}:$ 蚤
 $^{\text{h}}\mathbf{m}$: $^{\text{h}}\text{m}\varepsilon^{\text{m}}\text{ba}$ 医者
 $^{\text{h}}\mathbf{n}$: $^{\text{h}}\text{n}\check{o}:$ 存在する
 $^{\text{h}}\mathbf{ɲ}$: $^{\text{h}}\text{ɲe wu}$ 軟らかい
 $^{\text{h}}\mathbf{\eta}$: $^{\text{h}}\text{\eta}\check{o}:\gamma\text{w}\check{u}$ 早い

5.2.3. 先行子音が両唇音

$\Phi\mathbf{t}^{\text{h}}$: $^{\circ}\Phi\mathbf{t}^{\text{h}}\text{a}\gamma\check{\theta}$ 細い
 $\Phi\mathbf{t}$: $\Phi\mathbf{t}\alpha:$ 岩
 $\Phi\mathbf{ts}$: $^{\circ}\Phi\mathbf{tsu}:$ 売る
 $^{\text{w}}\mathbf{z}$: $^{\circ}\text{p}\check{z}^{\text{w}}\text{zi:}$ 口づけする
 $^{\text{w}}\mathbf{\gamma}$: $^{\text{n}}\text{d}\check{o}^{\text{w}}\gamma\text{i}$ 流れる
 $^{\text{w}}\mathbf{r}$: $^{\circ}\text{w}\text{ri:}$ しびれる

5.2.4. 先行子音が軟口蓋音

$^{\text{x}}\mathbf{t}^{\text{h}}$: $^{\circ}\text{v}\text{g}\check{o}^{\text{x}}\text{ti:}$ 首領
 $^{\text{x}}\mathbf{k}$: $^{\circ}\text{t}\check{a}^{\text{x}}\text{ku:}$ 曲がる
 $^{\text{x}}\mathbf{ts}$: $\text{la}^{\text{x}}\text{tse:}$ マニ石

5.2.5. わたり音を含むもの

わたり音には/w, j, r/がある。いずれの組み合わせも見られる語が少ない。
/w/のもの

\mathbf{kw} : $^{\circ}\text{kwa}$ 食用種子
 $\gamma\mathbf{w}$: $^{\text{h}}\text{\eta}\check{o}:\gamma\text{w}\check{u}$ 早い

/j/のもの

\mathbf{bj} : $^{\circ}\text{bj}$

/r/のもの

\mathbf{mr} : $\text{mr}\check{\theta}^{\text{h}}\text{ts}\check{\theta}:$ 牧人

5.2.6. 3子音連続

少数ではあるが、3子音連続が見られる。

$^h s j$: $^h s j e$: 金
 $^h t \epsilon w$: $^h t \epsilon w a$: 大便
 $^f m j$: $^f m j e$: ru 赤い
 $^h t \epsilon j$: $^h t \epsilon j e$ zē 猛獣
 $^f t j$: $^f t j e$ 敷く
 $^m p^h j$: $^m p^h j e$ レンガで作る

6. 蔵文との対応関係による gZhungwa 方言の特徴づけ

チベット文語(蔵文)形式と口語形式の対応関係を探ることは、チベット語方言の特徴を分析する伝統的な手法であり、先行研究から一定の注目すべき対応関係の傾向が示されている。

さて、ヒャルチベット語については、すでに複数の方言の事例が孫天心(2003)や Suzuki(2005a)、鈴木(2007c, 2008a)によって分析されている。これらの分析結果とも対比させつつ、ヒャルチベット語の中における gZhungwa 方言の特徴づけも行う。

ここでは初頭子音と母音+音節末形式の2つに分けて述べる¹⁰。なお、この考察の目標は通時的な議論を行うのではなく、方言の特徴づけを行うためのいくつかの指標に基づいた対応関係を提示することにある。

6.1. 初頭子音

6.1.1. 閉鎖・破擦・摩擦音の有声性

gZhungwa 方言では、閉鎖・破擦音および摩擦音について、蔵文で基字に先行する子音がない有声音字 g, j, d, b, zh, z¹¹は、それぞれの調音点の無声無気音に対応する。たとえば ko: za 「服」(gos)、 $^o t \epsilon 3$ 「お茶」(ja)、tə ri: 「今日」(de ring)、 $^o p e$: 「チベット人」(bod)、sā $^f m o$ 「銅」(zangs)、xə $^m b i$ 「帽子」(zhwa) などのようである。また、これらの文字に足字がある場合も同じくの無声無気音に対応する。 $^o \phi t a$: 「岩」(brag) や ti: 「尋ねる」(dri) などのようである。ただし、 $^o z e$: 「家畜」(zog) や zə: $^h \epsilon^h t$: 「北」(byang phyogs) のように、特に摩擦音は有声音で対応する例が複数見られる。

¹⁰ レジスターについても議論することが必要と考えられるが、蔵文との対応という観点から考えると状況が極めて複雑であり、方言は異なるが Suzuki(2005b)の試みた分析に、レジスターの蔵文との対応関係が複雑であることの一端が示されている。gZhungwa 方言についても現段階では明確な蔵文との対応関係を分析できないため、本稿では割愛する。

¹¹ 有声音字としては dz も含まれるが、dz ではじまる蔵文形式に対応する口語形式は得られていない。

以上の特徴は、巴西区のヒャルチベット語方言を除いてほぼ共通である。ただし上の条件下での摩擦音が基本的に有声音で現れる方言もある。

以上に触れた蔵文有声音字は、閉鎖・破擦音について、頭字や前接字を伴う形式に対応する口語形式では多くが無声音を含み、完全な有声音として実現しない。たとえば^ofi^oko「門」(sgo)、^{fi}tsu^o wə「腸」(rgyu ma) などのようである。前接字 b がつく形式には、^ɸtsu:「売る」(btsong) などのように初頭子音が両唇音で現れる例もある。なお、gZhungwa 方言では摩擦音は有声音で実現されるのが通常である。

この特徴は、ヒャルチベット語の中で巴西区と九寨溝風景区の方言に見られる。さらに Babzo 方言では、頭字・前接字を伴う有声摩擦音字の対応形式さえも主子音が無声化する。

6.1.2. 蔵文 sh, zh 対応形式

蔵文 zh には、先に示したように、xə^mbi「帽子」(zhwa) のほか^{fi}γə「4」(bzhi) のように軟口蓋摩擦音 x/γ が対応する。同様に、蔵文 sh には^ox^hɜ「肉」(sha) や^ɕhe:「知っている」(shes) のように、調音点が軟口蓋摩擦音 x^(h) や硬口蓋摩擦音^ɕ(^h) に対応する。この点が gZhungwa 方言の調音の特徴になる。

周辺の方言には、さらに前部硬口蓋と軟口蓋の同時調音的な摩擦音^ʃ(^h) も現れる。たとえば Askyirong 方言では x^hu^ɕ fia「柏」(shug pa) や^ʃha「肉」(sha)、Babzo 方言では^ɕha「肉」(sha) や^ojo「ヨーグルト」(zho) のような例がある。

6.1.3. 蔵文 Py 対応形式

蔵文 Py は、p, ph, b に足字 y を伴う形式を含む形式についていう。

gZhungwa 方言の対応形式は、基本的に前部硬口蓋摩擦音である。たとえば、^ɕhu^hpo「裕福な」(phyug po)、^ɕa^{fi}mo「砂」(bye ma) などである。ただし、^oh^{sə} h^kɜ「春」(dpyid ka)、^ofi^{jə} h^kɜ「夏」(dbyar kha) などもある。

これは多くのヒャルチベット語方言と共通する。ただ九寨溝風景区の方では歯茎摩擦音となる点で異なる。

6.1.4. 蔵文 Ky 対応形式

蔵文 Ky は、k, kh, g に足字 y を伴う形式を含む全ての対応形式についていう。

gZhungwa 方言の対応形式は、基本的に歯茎破擦音である。たとえば、^ofi^{tsa}「漢族」(rgya)、^ots^{hə}「犬」(khyi) などがある。

歯茎破擦音という対応関係は九寨溝風景区で話される Phyugtsi 方言などに見られる。決して多くの方言と共有しない際立つ特徴といえる。ヒャルチベット語の中では前部硬口蓋破擦音が広く見られる対応関係といえる。その中で Askyirong 方言では前部硬口蓋閉鎖音(^t, ^t, ^d) との対応関係も存在して、蔵文 Ky 対応形式は多様であると判断できる。

6.1.5. 蔵文足字 r 対応形式

蔵文足字 r を含む形式には、Pr (=pr, phr, br を含む形式)、Kr (=kr, khr, gr を含む形式)、tr, dr など閉鎖音を含むもののほか、sr などもある。

gZhungwa 方言では、一部の蔵文 Kr 類を除いて基本的にそり舌音に対応する。たとえば、^ɸtɕ: 「胸」(*brang*)、tʃi: 「書く」(*bris*)、^oŋdɔ̃^hɕ: 「宿屋」(*mgron khang*)、^otɕ: 「6」(*drug*)、^oʂɛ ma 「えんどう」(*sran ma*) など。

一部の蔵文 Kr 対応形式には、歯茎破擦音があたる。たとえば、^ots^ha^r 「血」(*khrag*)、ts^hi: 「導く」(*khrid*)、^htsi: 「(頭に)身につける」(*dkri*) など。

前者の対応形式はチベット語諸方言を通して広く確認されるものであるが、後者の対応は極めて限定される。ヒャルチベット語では Phyuḡtsi 方言の「血」が^ots^hɛ となる例が指摘できるが、決して主流の対応になってはいない¹²。

また、蔵文 sbr には^hr が対応する。たとえば、^hri: 「蛇」(*sbrul*)、^oh^rɔ̃ na 「八工」(*sbrang nag*) などである。この対応関係は多くのヒャルチベット語方言にも見られる。

6.1.6. 蔵文基字 l, y 対応形式

gZhungwa 方言では、蔵文基字 l, y はそれぞれ/l/, /j/が対応する。前者は蔵文で足字になる場合でも/l/に対応すると考えられる。

このことは、チベット語方言の類型上、まったく方言を特徴づける要素に数えられることがないといえるほど一般的な対応関係である。ところがヒャルチベット語の中には、蔵文基字 l, y にそれぞれ/j/, /z, z/が対応する方言が存在するのである¹³。Phyuḡtsi 方言がその1つであり、基本的に蔵文基字 l, y にそれぞれ/j/, /z/が対応する(鈴木 2008a)。Askyirong 方言や Chosrje 方言では、蔵文で g.y となる例に/z/が対応する。そして、ペマ語でも蔵文と対応関係が得られる語の中には、蔵文基字 l, y にそれぞれ/j/, /z/が対応するため、この蔵文対応形式には慎重に検討すべき問題になってくる。ペマ語分布地域に最も近い地域で話される Phyuḡtsi 方言と gZhungwa 方言では対応関係が異なっていて、Phyuḡtsi 方言では少数派の対応関係を見せるが、一方 gZhungwa 方言ではそうではなく、両者の間で際立つ差異である。

6.1.7. 前鼻音を含む子音連続

gZhungwa 方言の前鼻音を含む子音連続は、前鼻音要素に後続する子音に無声有気音と有声音のほか、無声無気音もまた見られる。蔵文の対応関係から見ると、無声無気音に先行する前鼻音は有声音字に m, ' が前接字となる例に対応関係が見られる。たとえば、^ompo: le: 「かんな」(*'bur len*)、^ompɛ: 「呼ぶ」(*'bod*) などのよう

¹² この事例は、アムドチベット語やヒャルチベット語の一部の方言が蔵文足字 r を含む形式の口語対応形式が蔵文足字 y を含む形式と合流しているという事例と関連があるかも知れない。つまり、gZhungwa 方言の事例で考えると、「血」は蔵文 *khrag* ではなく **khyag* のような形式と口語形式が対応するという考え方である。

¹³ ほかにカムチベット語の方言で、同様の対応を見せる方言がある(鈴木 2007c, 2008b)。

である。無声無気音に先行する前鼻音は、ヒャルチベット語では Babzo 方言に顕著に見られるが、これはチベット語方言全体の中で見ると典型的に珍しい特徴である。

逆に、蔵文には初頭子音に前鼻音に対応する要素を含んでいないにもかかわらず、いくつかの語には前鼻音が現れる。たとえば、^hk^hɔ: 「家」(*khang ba*)、^ht^he: fiɜ 「数珠」(*phreng ba*) などがある。この現象はヒャルチベット語の中で Phyugtsi 方言や Babzo 方言にも見られる。アムドチベット語の牧民方言のいくつかにも、この対応関係を示す例がある。

6.2. 母音 + 音節末形式

基本的な対応関係は以下のように示すことができる¹⁴。

V\C	# / '	b	d	g	m	n	ng	r	l	s
a	a / ɜ	ɔ:	e:	ɑ:	ɔ:	e:	ɔ:	a: / ɑ:	ɛ:	ɛ:
i	ə		i:	i:	e:	i:	e:			i:
u	u / ʊ	ɯ:	i:	ɯ:	u:	i:	u:	ə:	i:	i:
e	e	e	e:	o:	e:	i: / e:	e:	e:	i: / e:	e:
o	o	o	e:	ə:	ə:	e:	o:	ə:	u:	ə:

gZhungwa 方言は、ほとんどの音節が開音節となり、蔵文の音節末子音は先行母音の変音と長母音化を引き起こして脱落している。これはこの方言の極めて特徴的な対応関係である。

鼻母音は蔵文末子音が鼻音のものに現れるが、鼻母音自体が例外的対応といえる。

以上のようにまとめた対応関係は、特に母音の調音点について 1 つの主要な傾向に過ぎず、異なる例も多々見受けられる。

このような対応の傾向は、九寨溝風景区の Phyugtsi 方言に酷似している。また、音節末の鼻音がほぼ一律脱落する傾向は、若爾蓋県巴西区のチベット語方言とも共通する。ヒャルチベット語の多くの方言は鼻母音が相当数確認されたり、末尾に鼻音 ŋ や声門閉鎖音 ʔ、咽頭摩擦音 ɣ などをもつことに特徴づけられている¹⁵が、gZhungwa 方言は Phyugtsi 方言と同じく、そうではないタイプである¹⁶。

7. 語形式による gZhungwa 方言の特徴づけ

蔵文との対応関係による方言の特徴づけは、チベット語の方言の中による典型的特徴を明らかにするものである。これに対し、語形式による方言の特徴づけは、

¹⁴ 蔵文再添後字 s は口語形式に明確な対応関係を得られないため、以下の表では省略する。また、いくつかの対応形式は不明であるため、空白にしてある。

¹⁵ 鈴木 (2005b) の Sharkhog 方言 (= Ketshal 方言) や Suzuki (2005a) の Askyirong 方言など。

¹⁶ gZhungwa 方言で末子音に ʔ を伴う例として、^hkeʔ 「声」や seʔ 「命」などがあるが、いずれも末子音の音価は不安定で、脱落して長母音化を引き起こす場合もある。

方言間の類型の類似を越えて、地域的な側面から分析することになる。

7.1. 特徴的な音素を含む語形式

gZhungwa 方言の音体系を見ると、両唇摩擦音や歯茎側面有声摩擦音、中舌半広母音に注目することができる。

両唇摩擦音は、子音連続の第 1 要素で現れるものを除けば、次の 2 語にのみ見られる。

ɸu: γi 「持ちこたえる」, ɸō̃ ni ji 「選び出す」

歯茎側面有声摩擦音は、調査した語彙の中では次の 1 語にのみ見られる。

^hɟe: 「忌む」

上の語に含まれる歯茎側面有声摩擦音は、ある音素の変異形とは分析できないため、/ɟ/を設定しておく必要がある。この音素は Babzo 方言と Askyirong 方言にも見られ、これらの方言では例が複数存在して、/ɟ/は明確に独立した 1 音素として考えられる¹⁷。

中舌半広母音はよく見られ、たとえば以下のような例がある。

^htɜ 「馬」, rɜ 「山羊」, ^oɿɜ 「神」

この音素はほぼ蔵文 a#に対応する。また、この音素は他のヒャルチベット語では設定されない。調音点の近いものには Phyuḡtsi 方言に /e/があるが、同方言の母音体系では /ɑ/が存在しない。しかし gZhungwa 方言には /ɑ/もあることに特徴づけられる。いずれの方言においても、蔵文対応形式を考えると基本的に蔵文 a#に /ɑ/は対応しないことも指摘できる。

ヒャルチベット語諸方言のみならず、阿壩州に分布するチベット語方言を考えると、複数の方言に口蓋垂閉鎖音 /q^h, q/が存在する¹⁸が、gZhungwa 方言には存

¹⁷ いくつか例をあげておくと、以下のようなものである。

Babzo 方言

wɟa 「太もも」, ^hɟe: te 「編む」, k^ha lɔ: ^hɟə 「味わう」, p^hu ^hɟe 「間違う」, ɟa ra ɟa 「取る」

Askyirong 方言

ⁿdza ɟa 「世界」, ^oɿna ^hɟa 「赤ん坊」, ɟə ze 「とさか」, ɸtɔɔʔ ɟo: 「トイレ」, so ^hɟa 「竹笛」, ɟu 「竜神」, ^hɟa wa 「編む」, ^hkor ɟoʔ 「翻す」, ne gi ɳgo ɟo 「(頭に)かぶる」, γuɟ 「与える」

この音素が現れる語は各方言でほぼ異なっている。

¹⁸ いくつかのヒャルチベット語方言から例を挙げると、以下のようなものである。

Babzo 方言

q^hɑ: 「雪」, q^hɑ da 「からす」, q^hɑ n^hde 「苦い」, q^hɑ ɕ^hɑʔ 「からい」, quʔ 「穴が開く」, qa: ru: de rə 「暗くなる」, qə 「刺繍する」, s^həⁿge 「獅子」

Thangskya 方言

q^hɑ: 「雪」, q^hɑ ɳo 「顔」, q^hɑ γɑ 「牛乳の膜」, qo zɛ 「衣服」, qui ŋa 「襟」, q^hɑ ja 「ふた」, mə^hqa 「偽の」, q^hɑ n^hde 「苦い」, q^hɑ ɕ^hɑ 「からい」, ^ots^hɑ q^hɑ 「塩辛い」, ʔä nə^o qɑ: 「手に入れる」

在しない。gZhungwa 方言は音体系がやや単純になっている。また、gZhungwa 方言には無声歯茎流音 /j/ が存在しないが、これは Phyuṅtṣi 方言と共通する特徴である。しかし、チベット語方言全体を見渡した場合、きわめて特異である¹⁹。

7.2. 語形式自体に見られる特徴と特殊性

口語形式の中には、特定の方(群)に見られる特徴がある。1つには、蔵文との対応関係を見出せても、それが口語形式として対応すること自体が個別的、もしくは地域的観点から特徴的であるものがある。たとえば、以下のようなものが指摘できる。() 内に gZhungwa 方言に対応すると考えられる蔵文形式を添える。

- ^htṣa ^hka: 「月」 (*zla dkar*)
- x^ha ^hpɜ: 「風」 (*lhags pa*)
- γa ze: 「虹」 (*gzha' tshon*)
- ^hnɔ ^ŋgo 「鼻」 (*sna 'go*)
- °^hna ^mbu: 「耳」 (*rma bug?*)
- ŋa: ŋu: 「子供」 (*nyag nyog*)
- °zɔ: sə 「友人」 (*bzang sa*)
- °nə: 「牛」 (*nor*)
- t^hɔ re 「明日」 (*tho rengs*)

以上のような例は、口語と蔵文の対応関係が比較的明瞭であるように見えるが、注目すべき点がそれぞれある。いくつか説明を与えておくと、以下のようである。「月」は蔵文 *zla ba* に対応する方言が多く、ヒャルチベット語では2音節が1音節化している方言が多く、どちらに来源するかよく分からないが、gZhungwa 方言でははっきりしている。「風」は、多くのヒャルチベット語、アムドチベット語では蔵文 *rlung* に対応する形式を用いる。蔵文 *lhags pa* は中央チベット語で用いられる形式であるが、gZhungwa 方言周辺ではまれな形式であることが分かる。「虹」の *gzha' tshon* は古蔵文の形式と考えられるが、これに対応すると見られる口語形式は Phyuṅtṣi 方言や Babzo 方言などのヒャルチベット語方言に見られる点で、この形式が地域的なものと考えられる。「友人」が蔵文 *bzang sa* に対応するのは、これも sKyangtshang 方言や Thangskya 方言などのヒャルチベット語方言、および Sun (2003b) の扱う Zhongu 方言にも見られる点から、地域的なものと判断される。「明日」は蔵文 *sang nyin* の対応形式もあるが、ヒャルチベット語では広く蔵文 *tho rengs / tho rangs* (語義は「夜明け」) の対応形式と考えられる口語形式を用いる点

sKyangtshang 方言

q^hɑ: / q^hɑ wa 「雪」, q^ha ⁿde 「苦い」, q^ha ^hʂɑ: 「からい」

ほかにも、孫宏開・王賢海(1987)、華侃・尕藏他(1997)、華侃 主編(2002)、Sun (2003b)、鈴木・イエシエムツォ(2006)などが記述する方言を参照。

¹⁹ 同様に無声歯茎流音 /j/ を欠く方言には、Bartee (2007) の gTorwa/Pongding (東旺/彭丁) 方言(カムチベット語)がある。

で興味深い²⁰。このように、地域的特徴の一端を見出すことができる。

また、漢語などからの明確に借用語と分かるものを除いても、対応する蔵文形式が不明であるものが含まれている。gZhungwa 方言において、たとえば名詞についていくつか指摘すると、以下のようなものが挙げられる。

- °nɑ^h ʎu 「湖」
- °p^hwɔ: 「肩」
- °ʔɛ ɲa 「小指」
- ko^hli: 「赤ん坊」
- na ja 「野生の牛」
- ʔa lu 「猫」
- ⁿde la 「葉」
- wo wɛ: 「う年」

この種の例の中には、近隣の方言にも共通して見られるものもあるが、gZhungwa 方言の場合、多くの語で共通点を見出すのは難しい。この中では、「猫」が ʔa と lu という2つの音節から構成される語形式をもつのはヒャルチベット語に共通し、アムドチベット語では rNgawa 方言では lu lu といった形式が見られる点で異なる、といったことが指摘できるとどまる。

鈴木 (2007c) では、Babzo 方言の特徴的な語彙のいくつかは近隣で話される方言にも共通して見出せることを述べた。その際、地理的観点から見た居住者の交流に語彙の共通性の要因を求められる可能性に触れた。gZhungwa 方言には、この点から説明が与えられないことが多い。これはもしかすると、ヒャルチベット語の中でも gZhungwa 方言は周縁部に位置する地点で話され、異なる言語であるペマ語と地理的近さも影響したと考えられるかもしれない。

8. まとめ

gZhungwa 方言は、孫天心 (2003) の指摘するように、若爾蓋県巴西区のチベット語方言と似通った特徴をもつ方言ではあるが、細かい点は九寨溝風景区のチベット語に類似する特徴も持っていることが具体的に判明した。音声面の類型的観点から見ると、gZhungwa 方言は音節がほぼ開音節となる点で巴西区のチベット語方言と最も異なる点であるということが出来る。

地域的観点から考えると、gZhungwa 方言の特徴は Phyuḡtsi 方言の特徴と酷似する部分もあり、開音節が基本形式となる点は、近隣で話されるペマ語の特徴と

²⁰ gZhungwa 方言の「明日」^hre が「夜明け」の意味の蔵文 *tho rengs / tho rangs* と対応するというのは、西田・孫 (1990:42) による推定をもとにしている。これはそもそも《西番譯語》川二 (=《象鼻高山譯語》) 中の「明日」の項目に与えられる蔵文 *tho re* の解釈であると考えられるが、gZhungwa 方言を含むヒャルチベット語諸方言と照らすときわめて妥当であるように見える。なお、《象鼻高山譯語》に記録される言語はチベット語方言ではなく、おそらくヒャルチベット語の影響を多大に受けたペマ語であると見られる。なお、Sun (2003b:829, 836) も Zhongu 方言の「明日」の形式が蔵文 *tho rengs* と対応すると考えている。

も通じるところがある。ヒャルチベット語の細かな方言差異は、さらに多くの地点の資料を収集することによって徐々に明確になってくるといえるだろう。

参 考 文 献

- 鈴木博之. 2005a. 「チベット語音節構造の研究」. 『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号. pp.1-23.
- 2005b. 「チベット語松潘・九寨溝 [Sharkhog] 方言の超分節音素」. 『アジア・アフリカ言語文化研究』第 33 号. pp.1-37.
- 2006. 《九香線上の藏語方言對比研究》. 第 4 屆兩岸三地藏緬語族語言學學術專題討論會發表論文.
- 2007a. 『川西民族走廊・チベット語方言研究』. 京都大学博士論文.
- 2007b. 「甘孜州郷城県カムチベット語の方言特徴」. 『ニダバ』第 36 号. pp.17-26.
- 2007c. 「チベット語包座 [Babzo] 方言の音声分析と方言特徴」. 『アジア・アフリカ言語文化研究』第 74 号. pp.101-120.
- 2008a. 「九寨溝風景区のチベット語とベマ語をめぐる若干の問題」. 『アジア言語論叢』7. pp.91-107.
- 2008b. 「迪慶州瀾滄江流域カムチベット語（徳欽/雲嶺/燕門/巴迪方言）の方言特徴」. 『ニダバ』第 37 号. pp.115-124.
- 鈴木博之・イエシエムツォ. 2006. 「チベット語中阿壩 [rNgawa] 方言の音声分析」. 『アジア・アフリカの言語と言語学』第 1 号. pp.59-88.
- 西田龍雄・孫宏開. 1990. 『白馬譯語の研究 白馬語の構造と系統』. 松香堂.
- Bartee, Ellen. 2007. *A Grammar of Dongwang Tibetan*. Doctoral dissertation. University of California at Santa Barbara.
- Nagano, Yasuhiko. 1980. *Amdo Sherpa Dialect: A Material for Tibetan Dialectology*. Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- Sun, Jackson T.-S. 2003a. "Variegated tonal developments in Tibetan". In: Randy LaPolla et al. (eds.) *Language Variation: Papers on variation and change in the Sinosphere and in the Indosphere in honour of James A. Matisoff*. pp.35-51.
- 2003b. "Phonological Profile of Zhongu: A New Tibetan Dialect of Northern Sichuan". In: *Language and Linguistics* 4.4. pp.769-836.
- Suzuki, Hiroyuki. 2005a. *Dialectological particularity of A-skyid-rong [Axirong] Tibetan —special reference to Songpan and Abo Tibetan—*[阿西茸藏語の方言特徴—兼述松潘、阿壩藏語]. unpublished manuscript presented at 38th ICSTLL (Xiamen).
- 2005b. "Einige Bemerkungen über den Ursprung des creaky Tons im Tibetischen von Sharkhog [Songpan-Jiuzhaigou]". In: *Kyoto University Linguistic Research* 24. pp.45-57.
- 華侃 主編. 2002. 《藏語安多方言詞匯》. 甘肅民族出版社.
- 華侃・尕藏他 [sKal-bzang-thar]. 1997. 藏語松潘話的音系和語音的歷史演變. 《中國藏學》第 2 期. pp.131-150.
- 瞿露堂. 1991. 《藏語韻母研究》. 青海民族出版社.
- 《松潘県誌》編纂委員會編. 1998. 《松潘県誌》民族出版社.
- 孫宏開・王賢海. 1987. 阿壩藏語語音中的幾個問題. 《民族語文》第 2 期. pp.12-21.
- 孫天心. 2003. 求吉藏語的語音特徵. 《民族語文》第 6 期. pp.1-6.

[付記]

筆者による現地調査については、平成 16-19 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (S)「チベット文化圏における言語基層の解明」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 16102001) および平成 19 年度科学研究費補助金特別研究員奨励費「川西民族走廊・チベット文化圏における少数民族言語の方言調査と地域言語学的研究」の援助を受けている。

分類語彙 1400

配列は華侃 主編 (2002) に準拠し、名詞、数詞、代名詞、形容詞、動詞の順である。

名詞は、意味によって小区分を設けた。

天文地理

天	°nā ŋō mbo	山	rə	草地	°hpɔ:
太陽	ŋi wɔ	尾根	rə ŋgo	金	°hsje:
月	fi tsa hka:	谷	rə ŋgo °nō	銀	°fi ŋi:
星	°hka fi mɔ	岩石	°φtɑ:	銅	sā fi mo
天気	°nō	洞窟	φtɑ hku:	鉄	°htɕɑ
雲	°si:	洞穴	khu:	さび	°htsafi
雷	°ndɕu:	川	°tɕhu	アルミ	ha jɔ:
風	xha hpɜ	湖	°na fi ŋu	煤	°tʰo
雨	°nō	海	°u tsʰo	炭	fi to sʰɑ
虹	ɣa ze:	溝	lu fiɔ	草木灰	tʰjɛ hpa
雪	kʰɑ:	井戸	tow zɔ:	場所	°sʰa ja
雹	°shɛ: tɕʰɑ	道	lɔ:	長江	re: juu
霜	nā je:	平原	°htsə rə	黄河	°fi ma zɔu
露	si ja:	土	°sʰa	ラサ	°la hʰsʰa
霧	°hmɕu fiɜ	畑	sʰa ɕe:	アムド	°ʔa ndɔ
氷	fi tɕʰa row	水田	tɕʰu ɕe:	ポタラ宮	po ta la ji
火	ɲɛ	石	fi do fiɔ	クンプム	°hku mbu:
煙	tə fiθ	砂	ɕɑ fi mo	ラプラン	la wɔ:
電気	°fi le:	埃	sʰa fi na:	通り	°sʰɔ lɔ
空気	°fi lu hpu	泥	ndzu fi ba	村	fi te wa
蒸気	°fi lɔ hpo	水	°tɕhu	橋	zā mba
水害	°tɕhu xʰe:	波	tɕʰu fi ləw	家	tsʰə ndzɔ:
世界	ndzɔ fi le:	泉	°tɕhu hku:	故郷	°pʰa juu:
地	°sʰa	森	°na:		

人体

体	luu hpo	額	tʰa hpa	鼻の穴	hno ŋkhu:
頭	°ŋgo	眉毛	°ŋi htsu	耳	°fi na mbu:
髪	ŋgo hɕa	目	°ŋi fi to	顔	°kʰa ŋo
お下げ	re: li	鼻	hno ŋgo	口	°fi tɕhu hti:

唇	°ñtɕʰwʰpa	指	ⁿdzwɪ ɣwɪ	舌	°htɕafi
あごひげ	°ma re:	手のひら	lɑ hpa	喉	°ŋə hpa
あご	ma ʷge	親指	ⁿtʰe hʰtɕe:	肺	°fi le:
首	°hke	中指	ⁿdzwɪ ⁿda re: re:	心臓	°hne:
肩	°pʰwə:	小指	°ʔɛ ŋa	肝臓	°ñtɕʰə ᵐbɜ
背	fi ke: ri	爪	°sʰe wu	脾臓	°ⁿtsʰə hʰpɜ
脇	ⁿtɕʰã ʷgu	拳	ᵐbuw ⁿdzu:	腎臓	ⁿkʰe wə
胸	ɕtɕ:	皮膚	xʰa hpa	胆嚢	°ⁿtsʰə hʰpɜ
乳房	nu wə	傷口	°fi mə ɣa	腸	fi tsu wə
乳	fi o wə	しみ	°fi mo fi tɕe	大腸	fi tsu ɣa:
腹	sʰwʰpa	血	°tsʰɑ	小腸	fi tsu nɑ:
へそ	°hti je	筋肉	°fi tsa	汗	°fi ŋi: nɑ:
腰	°hke hpa	脈	tsʰɑ htʰsa	つば	tɕʰu wə
太もも	°fi la hʰkəw	脳	ⁿgo xko	鼻水	°hnə ji
ひざ	tsi ʷgo	骨	ruw hpa	涙	tɕʰu wə
下腿	°na pʰo ɣə	脊椎	fi ke: zi:	声	°hkeʔ
足	°hkə:	関節	tsʰi hka	死体	ro
腕	tɕʰɑ hpa	骨髄	°hkə:	命	ʂəʔ
手	lɑ:	歯	°sʰo	寿命	°tsʰe fi lo:
腕	tsʰɔ̃ ŋa	歯茎	sʰo fi ni:		

人物

人	°fi nə	男女	°pʰa mo	学者	jə ɣə ⁿte: nə
人民	mə re:	少年	pʰo sa:	代表	°kə sə
平民	mə sʰe:	少女	po wu	泥棒	°hkuw fi mɔ
チベット人	pe:	専門家	°ⁿkʰɛ hʰpɔ	強盗	tɕɑ:
漢族	°fi tsa	商人	tsʰo: wa	病人	nɛ hʰpɜ
蒙古族	sʰo hpo	医者	°h mɛ ᵐba	仇	ma hʰkə: sʰa
回族	xʰə xʰi	農民	°sʰa nɔ̃ gi fi nə	王	fi tɕəw wu
半漢半蔵	fi tsa mɔ pe:	軍人	°fi mɑ:	官	ⁿgo:
外国人	°ɕʰi tɕʰə ⁿfi nə	牧人	mrə htʰsə:	首領	°ⁿgo xʰtʰi:
大人	fi gɛ hpo	大工	mi zə:	友人	°zə: sə
子供	nɑ: nu:	鍛冶屋	ⁿga ra	お供	ⁿdzo rō ⁿdʰa lə
赤ん坊	ko fi li:	狩人	rə rɑ də nə	教師	fi lo hpe:
老人	fi ke hpo	料理人	°thow gi nə	仕立て屋	zo wa
老婦人	fi ke fi mo	英雄	°hpa wu	靴屋	°xʰə: ɕi ɣwɪ: nə
男	°fi nə	女英雄	po wu ⁿhpa wu	石屋	fi to fi o zo nə /
女	po wu	独身	°fi ni htʰei:		tɕʰi kuw

肉屋	^h xa ^{fi} ba	祖先	^o p ^h ɔʔ ʔa ni:	父の兄	^o ʔa ɣu
俗人	dzo ^h po	祖父	^o pa pa	父の兄の妻	^o ʔa ne
盲人	^o ni: ^{fi} lu:	祖母	ʔa tɛ ^h ɑ:	父の弟	^o ʔa ɣu
聾啞者	^o fi na wɛ:	父	ʔa po	父の弟の妻	^o ʔa ne
禿げの人	^o u go ka ^h ta	母	ʔa mo	甥	ts ^h u fiu
猫背の人	^{fi} ke ^h pa kə ro:	両親	p ^h a mo	兄弟	^o pej jɜ:
ばか者	^o fi la ^{fi} le:	息子	^o kɔ li	姉妹	ne ʃe:
口唇裂	^o h tɛ ^h u x ^h o	息子の嫁	ke wu	母の兄弟	xɔ ɣɔ
狂人	za ^{fi} lɔ:	娘	po wu	母の兄弟の妻	^o ʔa ne
どもる人	k ^h a ⁿ di: / k ^h a t ^h ɛ:	娘婿	pa: mo	親戚	zã za:
口の聞けない人	^o fi lã mba	孫息子	ts ^h u fiu	夫	^{fi} ke ^h po
客	ⁿ dɔ ^h po	兄	ʔa ^h pi	妻	^{fi} ke mo
知り合い	ŋo x ^h ɛ:	姉	ʔa ^h pi	継母	^o ʔa ne
知らない人	ŋo mə x ^h ɛ:	弟	^o pej jɜ:	継父	^o ʔa ɣu
		妹	^o ʃe wu	双子	^o ts ^h ɛ:

家畜

家畜	^o zɛ:	尾	^o fi ŋɔ fiu	ぶた	^o p ^h ɑ:
牛	^o ne:	馬	^h tɜ	めすぶた	p ^h ɑ: mo
黄牛	^{fi} ga ^h pɔ	子馬	^h ti ɣu	おすぶた	p ^h ɑ: ^h se:
ヤク	^o fi ja:	荷馬	k ^h ɛ ^h ta	子ぶた	p ^h ɔw ɣu
めすヤク	^o n dɔ	おす馬	^h ta ^h se:	ぶた糞	p ^h ɑ: li:
子なしのめすヤク	ⁿ dɔ ^h kɛ:	めす馬	^h ta ^{fi} mo	犬	^o ts ^h ɛ
ゾ	ⁿ dzo	鬣	^h ta ^o fi jɔ: re:	めす犬	ts ^h ɛ ^{fi} mo
おす牛	^o fi ja ^h se:	馬糞	^h ta li:	獵犬	^o ts ^h ɛ x ^h ɜ ji
めす牛	mo zɛ:	羊	ra lu	犬糞	ts ^h ɛ ^{fi} li:
乳牛	ⁿ dzo wu	綿羊	^o lu:	猫	ʔa lu
荷駄獸	k ^h e wo	めす綿羊	lu: mo	うさぎ	ru ɣu:
湿牛糞	^h tɛwɑ: ^o fi lã mba	山羊	rɜ	鶏	^o ɕa
乾牛糞	^h tɛwɑ: ^h kɔ mbo	子山羊	ri wu	おんどり	^o ɕa ta wu
角	rə zɛ:	子綿羊	lu ɣu	めんどり	^o ɕa te wu / ɕa mo
ひづめ	s ^h u ɣu	羊糞	ri ma	とさか	^o ɕa se: la
皮	^h pa ^h pɔ	騾馬	tɛ:	翼	x ^h ɛ ^h tɕa
毛	^h pu	口バ	po ^{fi} lu:	鶏糞	ɕa ^h tsɑ
毛の色	^h pu ɣu	らくだ	^o fi ŋɔ fiu	鳩	ɕa ɣɑ:

その他の動物

野獣	rə ra	かわうそ	°sɔ:	めじろ	°fi tsa ji:
猛獣	°h tɕje zē	ねずみ	ɕɕ:	啄木鳥	°xʰe: fi ta fi mō
虎	°h ta	ねずみ糞	ɕɕ: li	カッコウ	°kuu ku
獅子	°sʰɛ ŋge	リス	°do: °pʰo: γə	孔雀	°fi ma za
龍	°n dɕɕ:	いたち	°se: fi u	蛇	fi ri:
爪	fi wa h tɕa	ジャッカル	°m pʰa	蛙	°fi wu wa
猿	°si:	狼	°ɕō gu	魚	°ŋa fi
象	°fi lã m bo tɕʰe	狐	°wa	虫	°m bu
野牛	na ja	鳥	ɕe: lɕ	蚤	fi tɕə:
豹	°fi zi:	鳥の巣	ɕa n tsʰɔ:	しらみ	°xʰi:
熊/パンダ	tow	鳥糞	ɕa h tsɔ:	幼虫	°so ma
ヒグマ	tɕe: wɕ	鷹	ɕa fi ke	ハエ	°fi rɔ na
いのしし	pʰa fi ge	ツバメ	ta ra ti ɕə	蚊	°m bu
鹿	xʰa:	野生の雁	ɕi: lɕ	蝶	°ɕʰə mɔ lɔ h tsə
キバノロ	°fi la:	こうもり	ɕa mɔ ɕi:		
麝香	°fi la h tsə	からす	°kʰə rə		

植物

木	xʰe: fi to:	竹	°h ŋu fi ɔ	野菜	°h ŋo: / °h ŋo n tsʰɛ:
枝	xʰe: ŋgo	胡桃	°h ta h kɕ	大根	ju: mō
苗	xʰe: fi to:	穀物	°to: wa / lo do	唐辛子	la jɕe:
根	°h tsa h pa	食料	n dō ŋɔ	たまねぎ	tsu fi u
葉	n de la	米	n dɕe:	にんにく	fi kə: °ji: fi kə
花	me: ru:	種	°sʰō ŋe:	ジャガイモ	jɔ wu
芯	nɔ: ŋa:	小麦	tɔ	食用種子	°kwa
柳	fi tɕa wɔ	大麦	sʰo wo	えんどう	°sɛ ma
柏	xʰə:	カラスムギ	ju ka	草	°h tsɕ
松	°ɕʰa:	青稞	nɛ:	きのこ	xʰa fi u
ぶな	tsi ma	とうもろこし	jɕ mi	ひまわり	ŋi wɔ me də
茶の木	tɕa xʰe:	大麻	°sʰo wo		

食物

ごはん	t ^h u:	赤身	°x ^h a h ^h na:	卵	f ^h kuu ŋo
粥	°ci: fã	油	°h ^h nu:	酒	rə ɣɜ:
小麦粉	tɕa m ^h bu	植物油	°ji:	湯	tɕ ^h u h ^h ke:
豆粉	ʂɛ: ɕ ^h je	バター	ma:	茶	°tɕɜ
モモ	ko: p ^h a ri:	ツアンパ	°h ^h tsə m ^h bɜ	タバコ	tə:
蒸しパン	po: dzə	牛肉	nə x ^h ɜ	葉	°h ^h me:
乾物	kow ze:	ソーセージ	°fi ^h tsa	ぬか	°n ^h tu mo:
朝食	nã zɛ:	塩	°ts ^h ɜ	ぶたの餌	p ^h a: x ^h e: / p ^h a: ji:
昼食	ku: ze:	砂糖	ma: n ^h ɔ:	馬の餌	°h ^h ta x ^h e:
夕食	nuu h ^h tse:	氷砂糖	ma: n ^h ɔ: n ^h tɕ ^h ɜ ru:	鼻タバコ	°h ^h nɜ re:
肉	°x ^h ɜ	花椒	°fi ^h je mɔ		

衣料装飾

糸	°ɕ ^h u n ^h dju:	ズボン	°h ^h ko: h ^h no:	櫛	sh ^h o ma
布	re:	スカーフ	f ^h go ɕ ^h i:	装身具	f ^h tɕe n ^h tɕ ^h ɜ
コート	re: ɣə ko: za	帽子	xə m ^h bi	宝石	no wu:
袈裟	f ^h ze:	ベルト	°h ^h kuu ra:	珊瑚	ɕe ruu
衣服	ko: za	股引	ŋa h ^h ci:	真珠	muu ri:
チュバ	pe: ɣe:	靴下	wa n ^h dzə	象牙	pɜ sh ^h o
襟	°h ^h ke ɕ ^h u:	靴	xɔ:	イヤリング	°fi ^h na f ^h lu:
袖	p ^h u row	シャツ	k ^h ə h ^h tɛ:	指輪	°h ^h tə wu
ボタン	°t ^h əw jə:	起毛ジャケット	°wɔ: wɔ:	ブレスレット	n ^h tə f ^h ɣu

住居

毛布	nã n ^h do:	階下	ɰk ^h ɔ: ɣu:	門	°fi ^h ko
枕	°h ^h ŋa n ^h go	牛小屋	nə: wɔ	閤	f ^h ko t ^h e:
布団	h ^h tsa f ^h te:	ぶた小屋	p ^h a: ɣɔ:	玄関	f ^h tsa f ^h ko
座布団	m ^h bo f ^h te:	馬小屋	°h ^h ta ɣɔ:	窓	t ^h ɛ n ^h dzə
家	ɰk ^h ɔ:	羊小屋	lu: ɣɔ:	階段	f ^h tsa h ^h ke:
屋根	ɰk ^h ɔ: ru:	鳥小屋	ɕa n ^h ts ^h ɔ:	ステップ	f ^h to h ^h tɕa:
宿屋	°n ^h dɔ ɰk ^h ɔ:	壁	ɰk ^h a:	テント	wu:
キッチン	t ^h əw ɣɔ:	丸太	f ^h tō mo	牛毛テント	na h ^h tsɔ:
階層建築	t ^h u ɰk ^h ɔ:	板	x ^h e f ^h le:	トイレ	°f ^h tsa: h ^h kɜ:
階上	t ^h u ɰk ^h ɔ:	柱	°ka:		

生活用具

テーブル	°tso: tsə	柄杓	°tɕa: tu	錐	m̥bu:
いす	tɕu x̥tse	しゃもじ	°se h̥tu fi̯tɕa: rō	はさみ	°tɕhe m̥bə
ベッド	t̥hə s̥hɜ	木製椀	p̥hə h̥tɕu:	はしご	°hkɛ:
箱	°fi̯kɔ̃ m̥bu	ボウル	°hka jɛ:	鎖	zə wo
キャビネット	°tɕh̥ri:	皿	fi̯tje rə	鍵	°fi̯de ŋi:
ガラス	ɕhi̯ fi̯ko	箸	t̥hi: jɜ	棒	fi̯tɕa x̥kɜ
鏡	ɕhi: mi:	瓶	ɕhi: n̥du:	鞍	°hta fi̯ka
箒	°pi: wo	甕	°fi̯tsa lu	馬籠頭	°n̥t̥hu h̥ta
明かり	°hka fi̯me:	壺	°fi̯ti: rə	馬腹帯	°fi̯lo
薪	x̥he:	茶漉し	tɕa ru:	馬嚼子	°t̥h̥i̯ h̥ta
松明	°htɕu: ŋu:	水がめ	°fi̯tsa lu	あぶみ	jo h̥tɕe:
線香	h̥pe:	バケツ	°tɕh̥u h̥so:	鞭	°hta h̥tɕa:
ごみ	kə fi̯li:	木製盆	ɕhe: t̥h̥ m̥bə	駄架	fi̯ka:
かまど	°t̥h̥ h̥kɜ	三脚	°htɕa: fie	牛の鼻輪	°h̥nɛ h̥tɕu:
鉄なべ	°htɕa: h̥pɜ fi̯do:	秤	fi̯tɕa fi̯ma	めがね	°fi̯ŋi: rɜ
フライパン	də le:	斗	°hke:	牛皮繩	t̥h̥a:
蒸し器	°fi̯lu: t̥h̥o:	お金	fi̯ko fi̯mo	船	°tu
ふた	°k̥h̥a ja:	定規	t̥h̥ə zə	飛行機	°htɕa: ɕɜ
ナイフ	°htɕi wu	針	°k̥h̥o:	自転車	°htɕa h̥tɜ

その他道具

斧	°hta rə	鋤	°hka	包丁	°x̥he: fi̯dze: xɜ
金槌	t̥h̥ə:	皮の袋	t̥ə:	ほら貝	t̥h̥ ŋga:
鋸	°sh̥e: lu	まな板	xe fi̯tɕe:	銃	p̥e:
錐	°x̥h̥ə fi̯gu:	ガソリン	ma h̥ku	弾	°n̥dɜ
やすり	fi̯ta:	縄	t̥h̥a:	弓	°nda ɣu
かな	°mpo: le:	肥料	°fi̯me:	火薬	p̥e: me:
のり	°ci: ja	鎌	sɔ:	毒	°tu:
鍬	h̥xe fi̯dɜ	ふるい	ts̥he: wo	磨き粉	la h̥ku:
鉄の鍬	°htɕa:	碾き臼	°fi̯tɕh̥ə n̥dzi:	キルト	p̥hu: ɣe:

文化教育

絵	k ^h ə h ^h te:	神仏	°fi lɔ	寺	fi la ũk ^h ɔ:
本	jə ɣə	鬼	°m dɛ	経堂	fi la ũk ^h ɔ:
紙	x ^h ə x ^h ə	女鬼	mu m dɛ	静修室	°ɸ ts ^h ɔ ũk ^h ɔ:
ペン	°h ŋu ɣu	悪魔	°fi ti:	六字真言	ma ne
インク	°h na: ze:	仏陀	°fi lɔ	焼香	°h pe: ja:
チベット語	pe h ^h ke:	靈魂	°fi nã x ^h e:	宝の龕	pũ m ba
チベット文語	pe: ji:	魂	°su: ma	白塔	°fi tɕ ^h u h ^h te:
名前	fi ne:	天堂	nə ũk ^h a	施食	°h to fi ma
記号	°h ta:	来世	°ts ^h e ɕ ^h ə wo	曼陀羅	°h tɕi ũk ^h u:
ニュース	h ^h ke h ^h to:	運	lɛ: se nɔ:	マニ石	la x ^h tse:
伝記	°fi na ũt ^h ɔ:	縁	lɛ: lɔ:	墓	tu h ^h s ^h ɔ
笑い話	fi ke h ^h ɕe:	善行	fi ke fiɔ	仏像	t ^h u h ^h ku
声	°h ke ŋgɑ	凶兆	°h tɛ ŋe:	バター灯	°fi tɕ ^h u fi me
歌	°fi lu	ラマ	°fi la ma	カタ	°k ^h a ra:
踊り	°fi tɕ ^h ɔ:	活仏	°h t ^h u h ^h ku	護身符箱	ka ju
太鼓	°fi ŋɔ	僧侶	°ʔa ɣu / fi ke h ^h xe:	生命樹	fi la x ^h e:
どら	re wu	尼	tɕo mo	呪文	°h ŋɑ:
ベル	di: ts ^h ɛ:	ボン教	po m bo	お経	tɕ ^h ə:
竹笛	°fi ũ wu	還俗僧	fi ke h ^h xe: °ɕ ^h ə fi lɔ:	数珠	fi t ^h ɛ: fiɔ
鈴	°ɕ ^h ũ ne	茶の寄付	ma: ɔɔ	仏像彫刻家	fi la fi zo
ラッパ	°lu ũ ŋu	地獄	°ɸ tsɛ ũk ^h ɔ:	金剛	°fi to fi tɕi
お面	°m ba:	閻魔	°h xe fi tɕe	マニ車	ma ni °ũk ^h o fi lo

抽象物

地位	fi t ^h o me:	感謝	fi zɔ n da:	力	°x ^h e:
権力	°fi wɔ:	裂け目	°ke: h nɔ	監獄	°ɸ tsɛ ũk ^h ɔ:
生活	zɛ fi t ^h o	痕跡	°fi mɔ fi tɕi:	裏地	nɔ:
優待	p ^h ɛ m ba	影	tsə h so	裸足	°h kɔ: fi tɕi:
苦しみ	°fi tu fi ŋa	色	°n do h kɔ	武器	°ɸ ts ^h ɛ ũ dza
間違い	le: ne:	夢	°fi ŋə fi lɔ:	勝利	t ^h ɑ: nɔ:
危険	°ɕa xɔ	考え	°tɛ: lu:	国家	fi tɕa k ^h ɔ:
区別	məʔ tɕ ^h e za	事情	lɛ: na:	会議	k ^h ɛ xu:
空間	°to wɔ	方法	°fi lo	距離	°t ^h ɑ: re: °lo:
吉祥	ɸ tɔ ɕi:	性格	°h tɔ	歩行	°h kɔ: rɔ:

位置方角

方向	^o h ^h ɕ ^h ɰ:	外側	^o h ^h tsə ^h ɕ ^h ɰ:	高いところ	nɜ ^h ʋ ^h k ^h a nə
東	^o x ^h a ^h ɕ ^h ɰ:	内側	nɔ: nə	上のほう	ʋ ^h k ^h a: ʋ ^h k ^h ə
南	^{fi} lo ^h ɕ ^h ɰ:	周り	^o ŋ ^h a ^h ɕ ^h i:	ふもと	rə ^{fi} tsa ^{fi} pə
西	nɰ ^h ɕ ^h ɰ:	近所	^o h ^h tsɜ: nə	以上	ja ^h tɕe:
北	zɔ: ^h ɕ ^h ɰ:	境界線	sa ^h ts ^h ɔ:	以下	ma ^h tɕe:
中間	^o h ^h tsi: ^{fi} nɔ:	頂上	ʋ ^h k ^h ɔ: ʋ ^h k ^h ə: nə	上へ	^o jɛ:
そば	^o h ^h tsa: nə	上側	^o ʋ ^h k ^h ə: nə	下へ	^o tɕ ^h ɰ:
左	^o fi ^h jɛ: ^{fi} mo ^h ɕ ^h ɰ:	下側	wu: nə	上半身	ja ^h tɕi:
右	^o fi ^h jɛ ^h pa ^h ɕ ^h ɰ:	上	^o ʋ ^h k ^h ə:	下半身	ma ^h tɕi:
前	^o h ^h ŋi ^h ɕ ^h ɰ:	下	wu:	端	^o fi ^h nɜ ^h ɣə
後	^o fi ^h tsa: nə	下の方	wu:	底	^o wu:

時間

時間	di: ts ^h ɛ:	うし	^o fi ^h la:	中旬	^{fi} tsa: ^o h ^h tsi: nɔ:
今日	tə ri:	とら	^o h ^h ta:	下旬	^{fi} tsa ^h ɣu:
昨日	^o k ^h a tsɔ:	う	wo wə:	年	^o lo
おととい	^o k ^h a tsɔ: ^o h ^h ŋo ^h ŋu	たつ	^o ŋ ^h dɰ:	年齢	lo za
さきおととい	^o k ^h a tsɔ: ^o h ^h ŋo ^h ŋu	み	^o fi ^h ri:	最近	ti zɔ:
明日	t ^h ɔ re	うま	^o h ^h tɜ	今年	^o tɔ: ji ^{fi} lo
あさって	^o fi ^h na: ŋi:	ひつじ	^o lɰ:	去年	nɔ: ni lo
しあさって	^o fi ^h ɣə ŋi:	さる	^o ʃi:	おととし	nɔ: ni ^o h ^h ŋo ^h lo
今晚	tə nɛ:	とり	ɕɜ	来年	ta ^{fi} lɜ
明日の晩	^o sh ^h ɔ: ŋɰ:	いぬ	^o ts ^h ə	再来年	^o s ^h a nɜ
昨日の晩	^h da:	ぶた	^o p ^h a:	以前	^o p ^h a ^{fi} o go
昼間	ŋi ^h ɣu	1日	^o ts ^h e ^h tɕi:	昔	ta ^h go ta ^h go
朝	nɔ̃ na	2日	^o ts ^h e ^{fi} ŋi:	今	te zɔ:
正午	^o ku: zɛ: k ^h a	月	^{fi} tsa:	未来	^o ɕ ^h ə: wɜ
夕方	^{fi} ku ^h ka	午前	^o h ^h ŋo ^h ŋɔ:	はじめ	^o h ^h go le ji
夜	nã ɕ ^h i:	午後	^o ɕ ^h ə ^h ŋɔ:	春	^o h ^h sə ^h kɜ
夜中	ɕ ^h e ri: xa	1月	lo ^h sa: ^{fi} tsa:	夏	^o fi ^h jə ^h kɜ
えと	lo zɛ:	2月	^o fi ^h ŋə ^h dɜ	秋	^o h ^h tã ^h ɣɜ
ね	ɕɰ fiə	12月	^o ɕ ^h i: ^{fi} tsɜ	冬	^o fi ^h kə ^h ɣɜ
		上旬	^{fi} tsa ^h go	新年	lo ^h sa:

数字

一	^o h tɕei:	十九	^o tɕu f ⁱ kuu	八十七	f ⁱ tse: h ^t tɕu ^o h tsa: f ⁱ ti:
二	f ⁱ ɲi:	二十	ɲə x ^h u	九十	f ⁱ kuu h ^t tɕu
三	^o hsu:	二十一	ɲə x ^h u ^o h tsa h ^t ɕei:	九十八	f ⁱ kuu h ^t tɕu ^o h tsa f ⁱ tse:
四	f ⁱ ɣə	二十八	ɲə x ^h u ^o h tsa f ⁱ tse:	九十九	f ⁱ kuu h ^t tɕu ^o h tsa: f ⁱ kuu
五	^o f ⁱ ŋɔ	三十	^o s ^h u f ⁱ dʒu	百	^o f ⁱ tsa
六	^o tɕ:	三十二		百一	^o f ⁱ tsa rɜ ^o h tɕei:
七	f ⁱ ti:		^o s ^h u f ⁱ dʒu ^o h tsa: f ⁱ ɲi:	百八	^o f ⁱ tsa rɜ ^o f ⁱ tse:
八	f ⁱ tse:	三十八		八百八十	
九	f ⁱ kuu		^o s ^h u f ⁱ dʒu ^o h tsa f ⁱ tse:		f ⁱ tse: f ⁱ tsa rɜ f ⁱ tse h ^t tɕu
十	^o tɕu t ^h ã m ^b a	四十	f ⁱ ɣə h ^t tɕu	千	^o to: zow
十一	tɕe h ^t ɕei:	四十三	f ⁱ ɣə h ^t tɕu ^o h tsa h ^s u:	万	^o t ^h ə zow
十二	^o tɕu: f ⁱ ɲi:	五十	^o f ⁱ ŋɔ h ^t tɕu	十万	^o t ^h ə h ^t tɕu t ^h ã m ^b a
十三	^o tɕu h ^s u:	五十四	^o f ⁱ ŋɔ h ^t tɕu ^o h tsa: ɣə	百万	^o t ^h ə f ⁱ tsa
十四	^o tɕu: ɣə	六十	tə h ^t tɕu	千万	f ⁱ mə ri:
十五	^o tɕe: f ⁱ ŋɔ	六十五	tə h ^t tɕu ^o h tsa: f ⁱ ŋɔ	一億	^o h tō ^o dʒo:
十六	^o tɕe ^o dʒu:	七十	f ⁱ tɕ ^o dʒu	半分	tɕ ^h e ɣə
十七	^o tɕu f ⁱ ti:	七十六	f ⁱ tɕ ^o dʒu ^o h tsa ^o dʒu:	第 1	tã m ^b o
十八	^o tɕo: f ⁱ tse:	八十	f ⁱ tse: h ^t tɕu	第 2	f ⁱ ɲə m ^b a

代名詞

私	^o ŋɔ	自分	^o ŋɔ ^o da	あのような	p ^h i: rə jɕ:
私たち 2 人	^o ʔɔ f ⁱ ɲə ɣa	他の人	^o ɲə rɛ:	誰	^o s ^h u j
私たち	^o wɔ f ⁱ tɔ ko:	これ	^o nə	誰ら	^o s ^h i: f ⁱ tɔ ko
あなた	^o ts ^h e:	これら	ni: to ko	何	ko rɔ
あなた (敬称)	^o ts ^h e:	ここ	no: nɔ̃	どこ	^o p ^h ə ru
あなたたち 2 人	ts ^h e: f ⁱ ɲa:	この辺	^o nə ɕ ^h u:	どのように	kɜ rɛ:
あなたたち	ts ^h e: f ⁱ tɔ ko:	この 2 つ	^o ni: f ⁱ ɲə ɣa	どれくらい	kɔ zɔ
彼 (彼女)	^o p ^h ə:	このような	^o nə je: ji	そのほか	xa mo
彼ら 2 人	p ^h i: f ⁱ ɲə ɣa	あれ (近)	^o h tsa: ɣə no:	おのおの	ʔa rɔ ʔa rɔ
彼ら	p ^h i: f ⁱ tɔ ko:	あれ (遠)	ji: p ^h ə ru	一切	^o ts ^h ɔ: mɔ
我々	^o ʔɔ f ⁱ tɔ ko:	あれら	p ^h i: to ko	今回	te: le: ɲe
我々 2 人	^o ʔɔ f ⁱ ɲə ɣa	あそこ	^o p ^h ə ru	いつか	^o ʔɔ rə
皆	^o ʔɔ f ⁱ tɔ ko:	あの辺	p ^h ə ɕ ^h u:		

形容詞

大きい	tɕ ^h u fiu		°hta ^{fi} mo tɕ ^h ku	安い	ku: °fi ^{ma:} mo
小さい	xə ri	黒い	°na wu	年老いた	fi ^{ke} h ^{po}
太い	rə ^m bo	真っ黒の	muu na:	若い	°p ^{ho} h ^{sa}
細い	°f ^h t ^h a γə	白い	h ^{ke:} ruu	美しい	kə zə
高い	°n ^h o ^m bo	赤い	°fi ^{mjɛ:} ruu	醜い	kə ɲe
低い	°fi ^m ə fiū	黄色い	°s ^{he} fi ^{bo}	熱い	t ^ō m ^{bo}
凸の	m ^b uu ruu	緑の	°h ^ŋ ō m ^{bo}	寒い	n ^{ts} h ^a h ^{po}
凹の	°h ^{ko:} ruu	青い	fi ^{tɕ} ō n ^{gu}	暖かい	t ^{o:} l ^{u:}
でこぼこの	°h ^{ka} ruu k ^{o:} ruu	灰色の	°h ^ɕ z p ^h ə: rə	温暖な	t ^ō m ^{bo}
長い	rə wu	明るい	°h ^{ka} h ^{po}	涼しい	°h ^{tɕ:} mo
短い	°t ^h u h ^p ə	暗い	muu na:	難しい	°h ^{ka} n ^{de}
遠い	t ^h a: r ^{e:}	重い	°fi ^{tɕ} ə wu	簡単な	°fi ^j ə wu
近い	t ^h a: ɲ ^{e:}	軽い	j ^{o:} wu	芳しい	xə ^m bo
幅広い	ɕi: je	速い	n ^{dzo} h ^{po}	酸っぱい	°h ^ɕ u h ^{po}
狭い	ɕe: ju:	ゆっくりの	kə lɛ	甘い	xə ^m bo
広々した	ɕe: tɕ ^h o ^m po	早い	°h ^ŋ o: γwɕ	にがい	k ^h a n ^{de}
狭窄の	ɕe: ju:	遅い	xə: n ^ō	辛い	°k ^h a ɕ ^h a
厚い	n th e wu	太った	°ts ^h ō m ^{bo}	裕福な	°ɕ ^h u h ^{po}
薄い	ɕə γə	やせた	°wɛ ɲe	清潔な	°hts ^{ō:} ma
深い	n th e wu	乾いた	°h ^k ō m ^{bo}	汚い	°m ^{e:} γe
浅い	ɕə γə	湿った	°fi ^l ɕ m ^{ba}	新鮮な	°s ^h a h ^{pa}
満ちた	kə:	硬い	°s ^a n ^{de}	死んだ	°x ^h ə ro
空の	°ht ^o fi ^o	軟らかい	°h ^{ne} wu	おいしい	°sa ji zu:
多い	m ^ō	固い	°s ^a n ^{de}	聞きよい	°fi ⁿ a: ɲi: ru:
少ない	xə ri: dzɜ	めちゃくちゃの	°ʔa ^h to p ^a tsa	見よい	°hta ji zu:
四角い	fi ^γ ə fi ^{tu:}	正しい	re	つらい	°h ^{ka} l ^{ā:} n th ū
丸い	h ^{tse} fi ^{lu:}	誤った	le: ɲe:	賢い	fi ^{zi} wu
平たい	tɕa ⁿ dzɕ	真の	ɲo	愚かな	°fi ^l ɕ m ^{bə}
尖った	°h ⁿ ō m ^{bo}	にせの	°fi ^{tse:} za	注意深い	γəw mo
水平の	k ^h u n ^{de}	生の	ma ts ^h e	和やかな	°k ^h z n ^{dz} a: m ^p ə
偏った	°s ^h a n ^{dz}	新しい	°h ^{sa} h ^{pa}	適当な	°n ^{ts} ɛ m ^{bo}
横の	°fi th e fi ^{le:}	古い	°fi ^ɲ ɛ	厳しい	ɲe m ^{ba}
縦の	n th e h ^{ka:}	よい	z ^{ō:}	まじめな	ts ^h a: j ^ə
まっすぐな	t ^{o:} wu	悪い	°ʔa γa / ɲɛ m ^{ba}	がんばった	°tɕ ^h e l ^ō
曲がった	°hta ^h ku	弱い	°ʔa γa	かわいそうな	°h ^ŋ ə fi ^{tɕe}
曲がりくねった		高い	ku: je	うれしい	°fi ^{ka}
				幸せな	°tɕə h ^{po}

平和な ^{fi}de mo
悲しい ^{fi}tɯ:

精通した ^{oŋ}k^hɛ h^hpɜ
嫌な mə h^hka: sə

まあまあ ^opa la pa la

動詞

愛する ^{fi}ka
固定する tɜɜ h^hke:
引越す rə ^{fi}bɑ:
助ける ro h^hpa
結ぶ ^{fi}to:
満腹になる ⁿdɔ: h^hnō
閉ざす ^otsu:
編む ^{fi}le:
編む ^{fi}le:
病気である ^one:
繕う ^ohtu:
補修する ^ohtu:
拭き消す tɑ: p^hu:
裁断する tɛ:
隠す ^{fi}wa ɣo
破壊する ^oçi:
粉碎する ^{fi}ŋi zo:
混ぜる ^osə ʃe:
歌う le:
騒ぎたてる ^{fi}lo: le tɛ:
炒める ^oshu:
けんかする ^{fi}lo: le tɛ:
沈む ⁿdɜ s^hũ
支える ^{fi}dzi ^{fi}de:
傘を開く ^ok^hɜ ɕ^he
完成する rɛ / ⁿdzur h^hnɔ:
持ちこたえる φu: ɣi
食べる so:
撒き散らす ^hxɜ:
持ち出す tɔ: / tɔ: kə ɕō
タバコを吸う tu: ^hte:
出る ^{fi}tsɔ: s^ho:
取り出す ^{fi}lo: kə ɕō
日が昇る ŋi ma x^hɜ fiō

出てくる ^{fi}tsɑ: x^hu: / ^ondzɔ
掘り起こす ^ohka
召し上がる so / ke:
着る ke:
履く ke:
穴に通す ^ok^hɔ: ŋi: tɑ
穴が開く ^ok^hu: bi: h^hnō
伝承する ^oɕ^ho: la x^he
吹く pi:
打つ ^{fi}to wu
刺し傷が痛む ^ots^hə ts^hi:
よじる ^{fi}ɣi:
間違う le: ni:
ぶつ ^{fi}tō
狩をする rə zɑ: ^{fi}te:
撃つ pə: ji:
当てる ^op^hu na
けんかする ^{fi}to: rĩ ji:
散らかす ^hth^h: re
倒す ^{fi}ə ri: pɑ: na
引いてくる le:
薪拾いをする ^ole:
賭ける ^omba h^htə mɔ:
居眠りする ^{fi}ŋi ^{fi}lɯ:
開ける ^ok^hɜ ɕ^he
雷が鳴る ⁿdɔ: dza
戦争に行く ^{fi}tsa rĩ: tɛ̃
結び目を作る
^htɯ h^hpɜ ^{fi}tsũ
くしゃみする
ʔɜʔ tɕ^hɔw h^hnɔ:
世話をする ^oko ^{fi}li: ^{fi}dzuj
導く lã ts^hi:
かぶる ke:

身につける ^htsi:
生まれる ^oŋi h^hse: di:
遅れる ^oŋi ^{fi}go kə
さえぎる ^ohtɕe ɣə
倒れる ^ok^ha ⁿdɛ: s^ho:
倒す ^ok^ha je: p^hu
つき砕く ^otɕ^hɑ p^hu h^hnɔ:
裏返す ⁿdze: / ⁿdze: ^{fi}tu
着く ^ohtse h^hnɔ:
待つ ^{fi}kɯ:
地が震える ^os^hɜ ŋgi:
頭を下げる ^oŋgo ^{fi}ku:
うなずく ^oŋgo ri:
点火する jə:
燃える ^{mb}ɑ:
詰め物をする ^ofi:te:
しおれる ^osə ⁿde
吊るす ^ona: ^{fi}ta
転ぶ ^ofi:ta: dzə
なくす ^ok^hɔ: ^op^ho rə
理解する he: ki
凍る ^ŋk^he:
凍る ke:
動く ^{fi}ge:
ちよっと動く ^{fi}ge:
読む ⁿde:
ふさぐ ^oŋk^ha h^hnɔ:
切れる ^otɕ^hɛ: s^ho: h^hnɔ:
ちぎる ^otɕ^hɛ: p^hu
積む ^opə ləj
隠れる ɣə re: ɣi
飢える ^ohtə ^hki
押しつける ^ohtɕe ^{fi}tɕe:
身震いする ^onda ^hku

熱がある °ts ^h ɜ wā	恥ずかしがる ŋo ts ^h a	猫が鳴く °ʔa luɪ tsɑ: re:
心配する °fi kə ^h nɔ:	怖がる °ɕa ^h kə	口バが鳴く [0pt][l]po:
罰する °tɕ ^h a ^h pɑ dze:	呼ぶ ^h m ^h pe:	lu tsɑ: re:
翻す °tɕ ^h ə k ^h a ɕ ^h e	叫ぶ ^h fiu: ɕi:	馬が鳴く ^h ta tsɑ: re:
振り返る °k ^h a lə jɪ:	飲む ^h n ^h dzu:	牛が鳴く nɔ: tsɑ: re:
翻訳する °ɕ ^h e jɪ:	適切である °fi t ^h ə stu re:	犬がほえる °ts ^h ə ŋɑ: re:
つむぐ ^h fi ze:	なだめる °ŋ go rā	ぶたが鳴く °p ^h a: tsɑ: ɣə
放置する °fi ɣu:	こぐ ^h °pe: / fi de:	羊が鳴く °lu: tsɑ: ɣə
入れる °ts ^h a t ^h əw	身ごもる luɪ ^h pu ^h nɔ:	トラがほえる °tɑ: ŋɑ: ɣə
放牧する nɔ: m ^h θe:	交換する fi tɕe: je	狼がほえる
飛ぶ ^h fi k ^h ɪ:	振る °fi ju:	°ɕō ŋ guɪ ŋɑ: ɣə
分かち合う fi ke:	帰る °tɕ ^h ə lə:	剥く °ɕ ^h e / °k ^h ɜ ɕ ^h e p ^h u
分家する fi k ^h ɔ: fi ke:	思い出す tɕe:	実がなる
分離する °ja fi gɑ:	破壊する °h x ^h i: p ^h u	x ^h e: ŋo °n ^h θe: h ^h ɔ:
分かれさせる °ja fi gɑ:	できる x ^h e: je	結氷する fi tɕ ^h a ru fi tɕ ^h a:
狂う °h ^h ɔ p ^h ə	混ぜる °sə sɕe	h ^h ɔ:
縫う °tɪ:	攪拌する °h ^h u p ^h u	結婚する °hpa: mo ŋɪ:
腐る ri: s ^h o:	生きている s ^h e:	ほどく °k ^h ɜ zɕe p ^h u
かぶせる °fi kow	支える ^h sɕe: h ^h ɔ:	お金を借りる
かぶる fi ke:	手に入れる °n ^h ɔ: h ^h ɔ:	fi ko fi mo te:
乾く °h ^h ɔ: h ^h ɔ:	水で混ぜる °tɕ ^h u ^h sə ji	ものを借りる °fi jɔ:
働く le ^h ka ne:	集まる xɕe: fi tu:	禁じる ni: je: s ^h ɜ
風邪を引く p ^h θe: ba ^h nɔ:	搾り出す °h ^h ta:	入る °nɔ: x ^h u
言う °h ^h xɕe:	搾る n ^h θe:	過ぎる n ^h dzo: tɕe
切り分ける °h ^h tɕe:	覚えている tɕe: lu	びっくりさせる °ɕɑ: x ^h ə
切断する °h ^h tɕe p ^h u	預ける °fi la ɣɑ	びっくりする °ɕ ^h ə
刈る fi dɑ:	送る °h ^h ku:	住む °fi dɪ:
与える ɕi:	忌む fi ɕe:	挙げる °fi na ^h ts ^h a:
耕す °fi me ne	締めつける °h ^h tɕe:	のこぎりで切る °s ^h θe: le
剃る fi ɣɑ: pə fi o	はさむ le:	完全にする
風が吹く x ^h a ^h pɜ dzɔ̃	選び出す fi ɕə ni ji	°h ^h ke n ^h de ga sɜ
つるす °fi ke:	はさみで切る ^h fi tɕe:	邪魔する fi ka: t ^h e
電気を消す °fi tɕəw	語る °h ^h xɕe:	開ける °ɕ ^h e
関心を持つ s ^h e: zō n ^h dɕe:	落ちる °m ^h bəw	沸く fi k ^h e:
閉める °h ^h te: ɣə	交換する fi tɕe re: ji:	開く °kɕe:
跪く °puɪ n ^h dzo tɕ ^h e	交わる xa ^h te je:	運転する °h ^h te:
転がる n ^h dɕe ɣe: s ^h o:	水を引く °tɕ ^h u ^h lu:	始める °ŋ go le:
年越しする lo ^h sa:	噛む °s ^h u ^h pə	開墾する °s ^h a fi ko
渡る °n ^h dzo / k ^h ə n ^h dɔ	教える °fi te:	切り倒す °h ^h ke:
経る le: h ^h ɔ:	鳥が鳴く tsɑ: re:	切る °h ^h tɕe

見る	^o h te:	埋める	^{fi} ki:ʔ	起きる	^o ja zu
見せる	^o h ta h tɕu:	買う	wu: ɲe	負う	^o tɕ ^{hi} :
見える	^{fi} ɲi: ^ɲ t ^h o:	売る	^o ɕ tsu:	略奪する	^o ɲ ^t h uʔ
医者に見せる		満ちる	^h kɔ:/	叩く	^{fi} tu:
	^o h mɛ: nɔ̃ ^o h te:		^o k ^h ɔ̃ ^h kɔ: ^h nɔ:	詮索する	^o h ke:
かつぐ	^o fi nã h tsa: /	ない	mə ^h nɔ:	切り刻む	^o h tu:
	^o ɲ ^t ə re:	隠蔽する	^o fi tuw	口づけする	^o pɔ̃ w̃zi:
暖める	ɲi: ⁿ de:	燃え尽きる	^o x ^h ə	要求する	je ge bje:
頼る	^o ɲ ^k hɔ̃ ^{fi} de:	さえずる	tsa: ɣi	取る	le:
ぬかずく	^o h s ^h a: ^ɲ tse:	理解する	he: ki	娶る	^o fi na: mɔ le:
咳をする	^o fi luw ^{fi} ɣe:	触れる	raʔ	行く	^h u:
刻む	^o h ke:	研ぐ	^{fi} ta:	回復する	^o tɕa: ^h nɔ:
ボタンをかける	^{fi} ra ^{fi} ɣu	粉をひく	^ɲ t ^h a:	治癒する	^o ɕeʔ tɕa: ^h nɔ:
暇である	^o s ^h o: ri	つかむ	lo: kə ɕə	欠ける	ma ts ^h a: je ^h nɔ:
泣く	^o ɣu: ɲi	持っておく	la: ^h nɔ: x ^h o te	完全である	ts ^h ã je ^h nɔ:
引く	^ɲ t ^h e:	できる	te ^o fi ɲe: ɣə	染める	^{fi} tse:
辛い	^o k ^h a ɕ ^h a	嘔吐する	^o h ɕu: ɣi	叫ぶ	^o h ta loʔ ^h ci
漏れる	s ^h a w̃ɣi:	這う	ko: ^h ki de	道を譲る	lo: ɕ ^h e:
来る	^o x ^h o:	這って歩く	ⁿ dzo: ɣi	温める	tɔ̃ m ^{bo} ɣi / ^o ɕe:
引っ張りあげる	^t hɔ: p ^h u	山に登る	ⁿ dzo:	知り合う	^o ɲo ɕ ^h e:
年をとる	^{fi} ke ^h po	木に登る	ⁿ dza:	投げる	^o k ^h ɔ̃ p ^h u
疲れる	ⁿ dze: ^h nɔ:	派遣する	^o fi ɲa: ^h ka s ^h o:	溶ける	^{fi} ɣu
つなく	^o ɲ ^t i: / ^o ti: ^ɲ t ^h i:	弧を描く	^o ɲ ^t s ^h ə ^{fi} lu ^h tɕi:	溶かす	^o h x ^u zo ^h nɔ:
量る	^o ts ^h ɛ:	走る	^o fi tɕu: s ^h u	もむ	^o ɕ ^h u:
乾かす	^o h kɔ: wu	茶を入れる	^o fi wɔ: wə	耐える	^o h ɕɔ̃ tsə
裂く	^o ɲ ^k ɛ: ^h nɔ:	賠償する	ⁿ dze ^h ko	なめす	m ^p hə:
ずぶぬれにする		身につける	^o t ^h ə ^{fi} de	撒く	^o h pə:
	^o fi lɔ̃ ^{fi} ba ji:	膨張する	^o fi ti: ^ɲ ts ^h a je	播種する	s ^h ə ɲe: ^o fi tɔ̃ w
流れる	ⁿ dɔ̃ w̃ɣi	木を切る	^o xa ɣə	解散する	^ɲ t ^h u: tsɔ̃
耳が聞こえない	^o fi nɔ̃ wə	ほとばしる	ju: p ^h u	ゆるめる	tɕe: s ^h o:
抱きしめる	pɔ: kə ɕə	裂ける	tɕ ^h a: ro:	掃く	^o h ɕ ^h a: p ^h u
漏らす	sa: w̃ɣi	破れる	^o h xa: s ^h o:	殺す	^o h tɕe:
混乱する	^o fi nɛ ɕe pa	壊れる	tɕ ^h a: ^{fi} ko	ふるいにかける	^o ts ^h ə:
濾す	^o ts ^h a: p ^h u	傷つく	^o ɣə ^{fi} ɲe:	日にさらす	^o ʔa ^{fi} la ^o h kɔ:
乱す	^ɲ tɔ: p ^h u	壊れる	^o tɕ ^h a:	日向ぼっこする	
転がす	^o h ko: re: ze:	壊す	^o h tɕa: p ^h u		ɲi wã ⁿ de:
積み重ねる	^o ɕ tsi:	敷く	^o fi tɕe	稲光が走る	^o fi lu ^o ɲ ^t s ^h e:
日が沈む	ɲi mã ⁿ dze:	レンガで造る	^o m ^p h je /	傷つける	^o fi mɔ̃ ji
しびれる	^o fi ri: / ^o w̃ ri:		^o ɲ go ^{fi} ko	相談する	^o fi lo: zi de
叱る	^o fi mo: jej	乗る	^o fi ɣɔ:	上がる	^o ɲ ^k h a

射る	m ^h e:	持ち上げる	°fi nã n ^h ts ^h u		°htse: mo ^h tse
射止める	°ndɜ m ^h e	涙を流す	°tɕ ^h u fi ni: fi ɣi:	忘れる	fi tɕe: ɣə ji
伸ばす	°htsa: dɔ	横になる	k ^h u: te	餌をやる	°fi li:
伸びる	n ^h e: p ^h u	やけどする	°sɜ: p ^h u	におう	h ⁿ e: fi to: lɜ:
成長する	ja ^h ɕe	逃げる	fi tɕe: re	尋ねる	tɕi: / °ti tɕi:
さびる	°htsa tɕ ^h ɜ:	物乞いする	fi lu:	握る	°dɜi: fi dzu:
腫れ物が大きくなる	°fi mɔ zə	着る	ke:	ふさぐ	°fi kə:
産む	ɣa:	頭痛がする	k ^h e:	吸い込む	le:
腹を立てる	°hpɔ la:	蹴る	fi tɕe: re fi tsɜ:	洗う	°ɕe:
残される	fi la nə	剃る	ɣa: p ^h u	好む	fi ka ɣə
昇る	x ^h ɜ: wo ŋe	曇りである	°fi nã h ^h ɔ̄ nɜ: h ⁿ ɔ:	目が見えない	°fi ni: lu:
なくす	s ^h e fi dɜ:			下りる	wə: / wə: h ^k ɜ
である	re:	晴れる	°fi nã h ^h ɔ̄ tɔ: h ⁿ ɔ:	産む	ɣa:
受け取る	la: t ^h ɜ:	夜が明ける	nɜ ɣa lɔ	卵を産む	°fi ku ŋɔ ɣa:
閉じる	xe fi ti:	暗くなる	°ku: ru:	雨が降る	°fi nã m ^b ɔ:
防御する	ko n ^h a ji	なめる	°fi tɕe	怖がらせる	°ɕã ɔ̄ dɜi te
守る	°su: te je	担ぐ	°tɕ ^h a low	陥没する	ke: sã ŋɔ ⁿ de
髪をとく	°x ^h ɜ:	選ぶ	°nɔ: s ^h e: ɣi	捧げる	ɕi: / m ^b i: p ^h u
調理される	n ^h ts ^h e: h ⁿ ɔ:	踊る	°n ^h tɕ ^h ɔ: fi dzɔ:	慕う	°h ^h ɔ: ɣi / °h ^h ɔ: s ^h ɜ re:
やせる	°fi we: ne	脈打つ	°htsa ^h tsə m ^h p ^h ɜ: ɣi	信じる	s ^h e: de
数える	°htsi	貼る	fi zɜ: wo	思う	tɕe: ɣi
ゆすぐ	°h ^h ɕe:	聞く	°ŋe:	思い出す	tɕe: wu
衰える	ɣa ɣa: s ^h ɔ:	聞こえる	°fi na ni:	したいと思う	°zɔ: ɣə
転落する	°k ^h ɔ tɕ ^h ə	止める	°ɕ ^h e fi de	似る	°n ^d ɔ ra re:
投げる	°h ^k ɔ p ^h u	知らせる	°h ^h ke: h ^k u	消える	je: s ^h ɔ: h ⁿ ɔ:
かんぬきをする	fi ko ^h tɕe dzɔ:	盗む	°h ^h ku ji	下る	°x ^h ə zu: h ⁿ ɔ:
結びつける	°hta: ɣɔ	吐く	m ^h p ^h ə: / m ^h p ^h ə:	気をつける	ko le: zɜ:
眠る	ŋe:	押す	°m ^h pi:	笑う	fi ko ^h h ^k a x ^h u / fi ke: x ^h o
寝つく	ŋe: fi te	口実を設けて断る	k ^h ɜ: t ^h e: ji	書く	tɕi:
話す	h ^h ɕe:	退く	°ɕ ^h ə d ^h u: si ⁿ dɔ ji	下痢する	fi tsɜ:
裂く	°h ^h ɕi ɣə	引きずる	°fi dɕi:	目覚める	°fi ni: s ^h e:
死ぬ	°x ^h ə	脱臼する	°m ^h p ^h i: p ^h u	恥ずかしがる	ŋɔ mə t ^h a ji
計算する	°htsi:	背負う	fi ke:	休む	h ^h ɕe de
粉碎する	°tɕ ^h ɜ: p ^h u	掘る	°h ^h ke:	刺繍する	zi: je
傷つける	°htɕa: p ^h u	曲がる	°fi ta x ^h ku:	探す	°htse:
錠をする	te: ɣə	曲げる	°fi ta h ^h ku: jo:	押さえる	°tɕe:
崩壊する	°ndə	終わる	ts ^h ɜ: h ⁿ ɔ: / fi tsu: h ⁿ ɔ:	かゆい	za ɣə
踏みつける	fi tsi:	遊ぶ	°h ^h ɕe /		

育てる ^h se:	刺す ^o fi ^h tsu:	杖をつく ^o h ^h tə ŋga
揺する ^o hku:	刺しこむ ^o fi ^h tsu:	ひっつかむ ^{fi} zu:
噛む ^o s ^h o ^{fi} de:	瞬きする ^o fi ^h ni: p3 le:	振り返る ^o ʃ ^h u ^{fi} t ^h i:
必要である ^{fi} ko: γə	抽出する ma ^h ku ^o fi ^h tʃu:	角を曲がる ^o ʃi: k ^h u: ŋt ^h i:
引き入れる ^o ts ^h i:	摘む ^h t ^h u:	移動する tsi: γi
頼る xɛ: te:	立つ ^o ja lə:	詰める ^o no: ^{fi} ti:
秘密にする ^o h ^h sə: te	引っ張って開く t ^h e:	追いかける ^o fi ^h te: / ^o ʃ ^h ə ^{fi} te:
勝つ t ^h ə: h ^h no:	大きくなる ^o ʃe:	準備する tsə ts ^h ɑ: ji
抱擁する ^h pə: le: ji:	かさが増す ^o fi ^h t ^h u:	捉える ^{fi} zu:
泳ぐ ^o tʃ ^h u nā ^h dʒi:	火をつける ŋe ^m ba:	行く ^h dʒo
持っている ^h no:	召集する ^o ke ^h dʒə ze:	中に入る ^h dzi:
いる ^h no:	探し出す ^o ʃ ^h e ^{fi} ŋe: rə	酔う ^o fi ^h zə ^h no:
存在する ^h no:	蒸す ^h ts ^h e:	座る ^{fi} te: / t ^h 3 ^{fi} te:
出会う ^o x ^h e t ^h u:	知っている ʃ ^h e:	する mə ge:
めまいがする ^h go ji ts ^h i:	織る ^h t ^h ɑ:	夢を見る ^o fi ^h ni lə: ^o fi ^h me:
許可する ŋə γə	指す ^o hte:	商売する ts ^h ə ^{fi} je:
栽培する ^o fi ^h tsu:	種をまく ^o nde: ta	連れる ro ^h pa ^{fi} je:
いる ^h no:	腫れる ^o ʃə: h ^h no:	証明する tʃə mi γə ŋə
増える k ^h 3 ^h ne:	煮る ^h ts ^h e:	

その他の品詞類

のみならず mə tʃ ^h u	とても x ^h ə s ^h ə	再び ^o ʔə: kə
~を除いて ^o tə me: ^h no:	まだ ^o ʃe	少なくとも kə: wu ^o je ^h no:
ほとんど ^o təj ^h no: me: ^h no:	今すぐ ^o fi ^h tsə ^h pa x ^h i:	~まで tə ti γɑ
もちろん ʔa ^{fi} tu re	一緒に ^h ts ^h ə: m3	最後に ^o ʃ ^h ə: je
たった今 ^o te s ^h ɑ:	必ず ji: nə me: nə	突然 ^o fi ^h lo ^{fi} ni kə:
本来的に t ^h ə t ^h i: xe na	~もまた kə: je ^h no:	
そして r3	それから ti: zə: / ^o ʃ ^h e	